

第3章

秋田における安心安全な地域づくり検討部会 (秋田部会)の報告

第3章 秋田における安心安全な地域づくり検討部会(秋田部会)の報告

秋田部会の概要

秋田部会 委員構成

座長	木村 一裕	秋田大学工学資源学部土木環境工学科 教授
委員	赤平 一夫	湯沢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐
	菊地 まゆみ	藤里町社会福祉協議会 事務局長
	土田 徹夫	横手市流雪溝利用組合連絡協議会 会長
	奈良 洋	秋田雪の会 会長
	森田 勝利	大潟村社会福祉協議会 会長
	吉田 慶嗣	秋田県社会福祉協議会 常務理事

秋田部会の経過

- ・第1回検討会議 平成18年12月13日 14:00～16:00 於：秋田県庁第二庁舎4階
- ・現地会議 平成19年2月18日 10:00～15:00 於：藤里町
- ・第2回検討会議 平成19年3月6日 14:00～16:00 於：秋田県社会福祉会館9階

秋田部会の検討課題

- <課題1> 地域内外の除雪協力関係を地域内に根付かせる
- <課題2> 各地域の除雪ボランティア組織の活動を強化する
- <課題3> 農業従事者の除雪協力の可能性を検討する
- <課題4> 「流雪溝」の先進地域が直面する問題を把握する

調査及び実証実験の内容と成果

	テーマ	内容	成果
課題1	北部地区の雪処理を考える懇談会(藤里町)	藤里町の特定集落を対象として、昨年度実施された、地域一斉除雪に関する地域住民座談会を開催する。	・高齢化等の進んだ自力対応の難しい集落では地域一斉除雪は有効。 ・「地域内での食事準備の負担」、「町外ボランティア受入れへの不慣れ」、「道路除雪と同時実施が必要」、「集落内道路の交通量・排雪場所が影響」が課題。
課題2	除雪ボランティア組織実態調査(湯沢市)	先進的な除雪ボランティア組織の活動状況を調査して、今後の担い手としての可能性を検討する。	・社協が主体となり設立。現在は36団体、700人の会員。会員の6割近くは学生・生徒、1割強が民間企業。学生・生徒が多く、将来的な担い手不足の心配は少ない。 ・民間企業は、規模の大小・業種に関係なく参加。 ・社協職員が調整役を担っているが、人手不足のために対応が困難。 ・都市部では設立されているが町村部は少数。
課題3	農業従事者の除雪協力の可能性検討調査(大潟村)	農業従事者の除雪協力の可能性・条件、除雪機器の保有状況等を調査する。	・隣接市町村の範囲なら農業従事者の除雪協力の可能性は高い。 ・農業従事者が保有する農業機械等を除雪活動に転用することについては、5割弱は「活用できる」と回答。 ・実現にあたっては、免許の有無、機械の損耗への懸念、操作技術、燃料費等がネック。
課題4	流雪溝管理の現状と課題調査(横手市)	流雪溝の管理運営の状況、現在直面している問題、その改善に向けた対応方法について関係者へのヒアリング調査等を行う。	・旧市内世帯数の2割弱をカバーする排雪インフラ。平成18年豪雪でも大きな効果を発揮。 ・特徴は流雪溝利用組合。組合員は整備費用の一部と、維持管理費用を応分に負担しながら運用。 ・流雪溝の担い手不足、組合員が減少による残った組合員の負担額増加、投雪作業の肉体的負担増、日中の投雪作業への対応困難が課題。

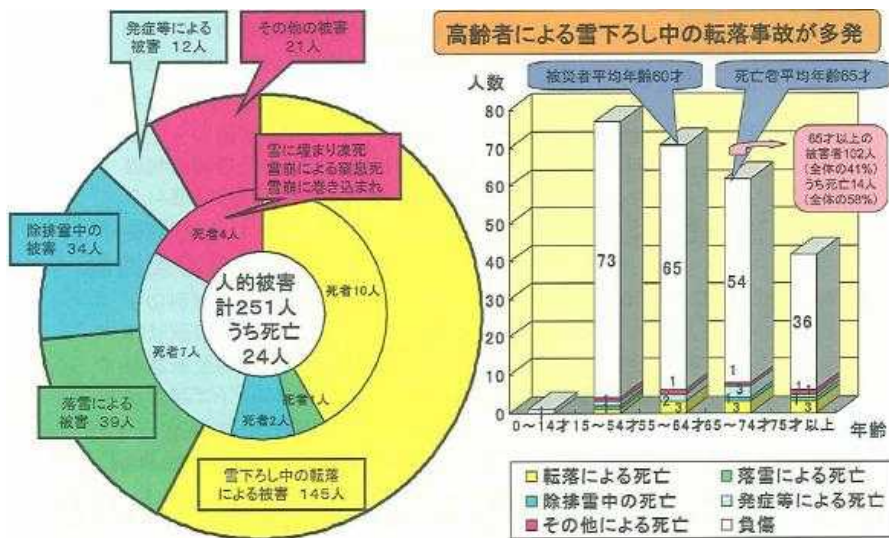
3 - 1 秋田地域の豪雪被害と対応状況

3 - 1 - 1 平成 18 年豪雪の被害（秋田県内）

（ 1 ）原因別の死傷者数

- ・ 人的被害者数は 251 人、うち死亡者数は 24 人。
- ・ 高齢者の雪下ろし中の事故が多数を占める。

図表 3 - 1 平成 18 年豪雪による秋田県の事故原因別死傷者



資料：秋田県知事公室総合防災課「秋田県総合雪害対策連絡会議資料」

（ 2 ）他の道県と比べた秋田県の被害状況

- ・ 人口あたりの死亡者の割合では秋田県が最も被害は大きかった。

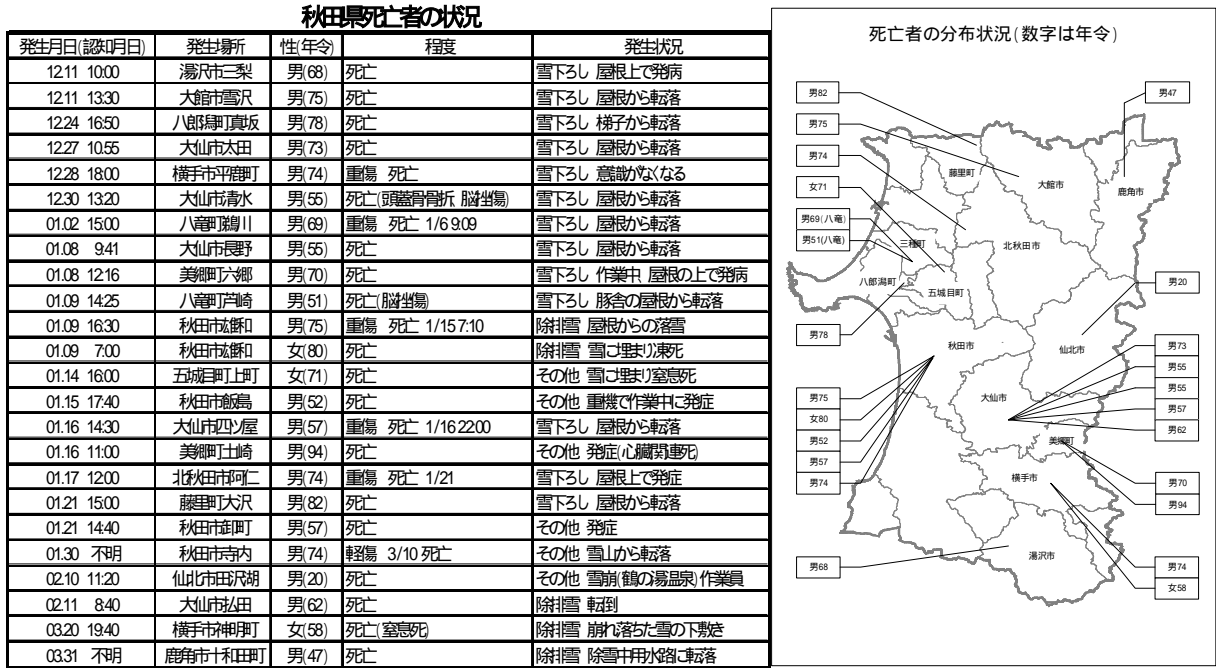
図表 3 - 2 平成 18 年豪雪による死亡者の多い道県の死亡者の割合

道県名	平成 18 年豪雪の死亡者数	H17 国勢調査人口	人口に対する死亡者の割合
新潟県	32 人	2,431 千人	1 人 / 人口 75.9 千人
秋田県	24 人	1,145 千人	1 人 / 人口 47.7 千人
北海道	18 人	5,627 千人	1 人 / 人口 312.6 千人
福井県	14 人	822 千人	1 人 / 人口 58.7 千人
山形県	13 人	1,216 千人	1 人 / 人口 93.5 千人

(3) 死亡者の状況 (発生日日・場所・年齢・発生状況など)

- ・平成 17 年 12 月中旬から 18 年 1 月中下旬の発生が大半。
- ・秋田市で 5 人 (人口 33 万人)、大仙市で 5 人 (人口 9 万人)、横手市で 2 人 (人口 10 万人)、八竜町 (現三種町) で 2 人 (人口 2 万人)、美郷町で 2 人 (人口 2 万人)。

図表 3 - 3 平成 18 年豪雪による秋田県の死亡者の状況



資料：「秋田県における『平成 18 年豪雪』被害の検証 奈良洋」雪輪第 32 号，秋田雪の会

(4) 「48 豪雪」と「平成 18 年豪雪」の比較

- ・秋田県の過去の大きな雪害である「48 豪雪 (昭和 49 年 1 ~ 3 月の発生)」に比べると、 男性の死亡が増えたこと、 雪崩を原因とするものが減り、雪下ろしや発症を原因とするものが増えたこと、 70 代以上の死亡が増えたことが指摘される。

図表 3 - 4 「48 豪雪」と「平成 18 年豪雪」の死亡者の比較

区分	人員	男女別		原因別								年齢別							平均	
		男	女	雪下し	落雪	除排雪	発症	雪崩	川に転落	その他	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代		
死者	H18	24	21	3	9	1	2	7	1		4	1		1	7	3	9	2	1	65.46歳
	48	15	9	6	8				6	1				6	6	2	1			54

資料：「秋田県における『平成 18 年豪雪』被害の検証 奈良洋」雪輪第 32 号，秋田雪の会

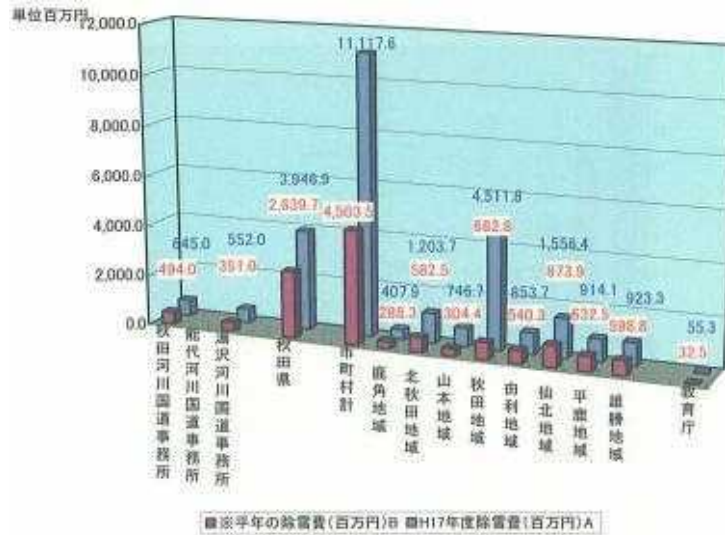
3 - 1 - 2 秋田県における平成 18 年豪雪の対応状況

(1) 行政における対応状況

1) 除雪経費

- ・ 平年に比べて秋田地域の市町村での除雪費の格差が大きい。

図表 3 - 5 平年と「平成 18 年豪雪」の除雪経費の比較



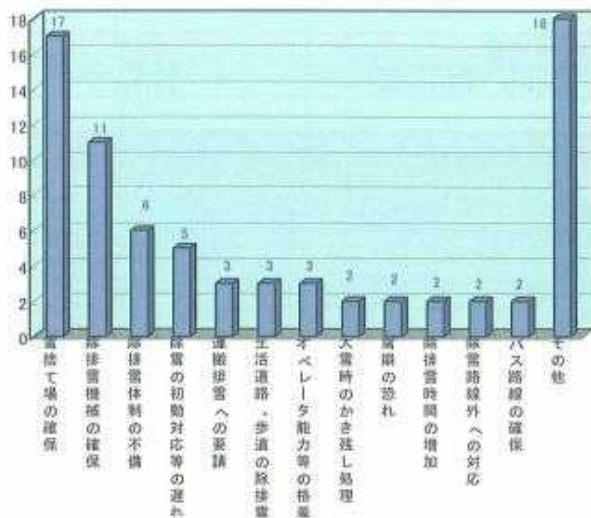
資料：秋田県知事公室総合防災課「秋田県総合雪害対策連絡会議資料」

2) 除排雪体制の課題

- ・ 機材・人材不足、排雪場所不足が問題であった。

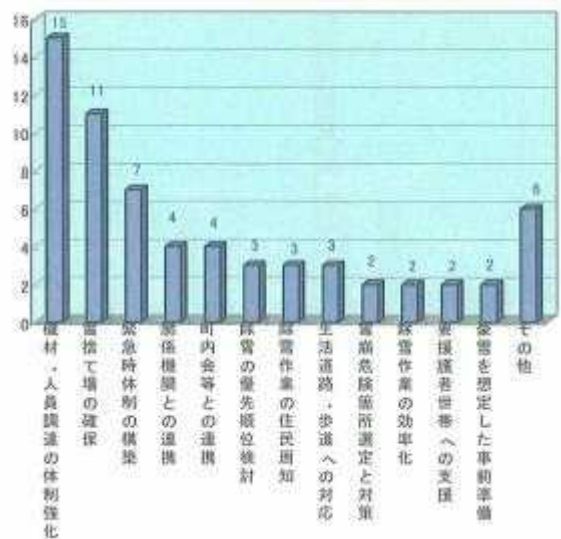
図表 3 - 6 「平成 18 年豪雪」の除排雪態勢の問題と課題

【除排雪態勢の問題】



【解決すべき課題】

(単位：団体数)



資料：秋田県知事公室総合防災課「秋田県総合雪害対策連絡会議資料」

(2) 社会福祉協議会における対応状況

1) 除排雪への対応

- ・一人暮らし高齢者の除雪、雪下ろし、排雪への要望・対応が多数を占める。

図表 3 - 7 社会福祉協議会における除排雪活動等への要望と対応状況

対象 / ニーズ	除雪(件)		排雪(件)		雪下ろし(件)		その他の生活支援ニーズ(件)		合計	
	依頼	対応	依頼	対応	依頼	対応	依頼	対応	依頼	対応
1人暮らし高齢者	3,245	3,145	293	261	784	579	28	71	4,322	3,985
高齢者世帯	410	384	120	105	428	333	8	4	958	822
身体障害者世帯	40	42	10	10	30	19	2	4	80	71
知的障害者世帯	0	0	4	4	9	8	0	0	13	12
精神障害者世帯	8	8	2	2	6	6	2	2	16	16
母子世帯	3	1	2	1	2	0	0	0	7	2
その他の要援護者世帯	48	29	33	26	51	37	1	4	132	92
計	3,754	3,609	464	409	1,310	982	41	85	5,528	5,000

資料:「社会福祉協議会の除排雪活動等への対応状況調査報告」社会福祉法人秋田県社会福祉協議会/H18.2.27より

注1)対象期間:H17.12.1~H18.1.31

注2)調査対象:県内の市町村社会福祉協議会(29カ所)

2) 除排雪の担い手の状況

- ・シルバー人材センター、社協職員、社協登録ボランティア、建設業等業者を活用している。

図表 3 - 8 社会福祉協議会の除排雪活動等の担い手の状況

担い手	回答社協数 (カ所)	人数(人)	平均(人)
社協登録のボランティア	15	1,979	132
募集したボランティア	7	565	81
社協職員	18	92	5
町内会に依頼	8		
シルバー人材センター	21		
建設業等業者	14	68	5
その他	18		
計	101	2,636	

資料:「社会福祉協議会の除排雪活動等への対応状況調査報告」
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会/H18.2.27より

注1)「社協登録のボランティア」とは湯沢市の除雪ボランティア隊(1091人)や大館市の除雪ボランティア組織(517人)等の人数を指す。

注2)「募集したボランティア」とは、市町村社協が独自に募集したものを指す。

注3)県全域での募集に登録した者の数は19人。

(3) 秋田県内における平成18年豪雪時の担い手確保の状況(検証)

1) 検討概要

- ・平成18年豪雪において秋田県内では雪処理の担い手が不足していたのか否かを確認する。

< 検討方法 >

- ・「雪処理の担い手が不足していた結果」は豪雪被害として顕在化するため、豪雪被害が生じている市町村を取り上げて、豪雪被害に関連するデータとの関係性を比較することで、担い手確保の状況を推測する。
- ・分析に使用するデータは次のものとする。

〔分析に使用するデータ〕 各数値の根拠は図表3-13を参照のこと

除雪体制に係わるデータ 除雪ボランティア会員数
 除雪車両(除雪計画に基づく車両)
 " (除雪支援が可能な業者が保有する車両)
 消融雪施設の整備量

気象変動に関するデータ 累計降雪量の変化
 除雪経費の変化

- ・なお、豪雪被害のデータについては、以下の理由から死者数を用いることとする。

〔豪雪被害のデータとして死者数を用いる理由〕

- ・平成18年豪雪における秋田県内の死者数は24人、死傷者数251名である。市町村別にみると、死者数と死傷者数の割合のバラツキが多いことがわかる。
- ・死者数、死傷者数については、消防庁の災害報告取扱要領に基づいて、市町村から消防署に報告されるものであるが、昨冬の秋田市の混乱状況だと、正確な報告ができていなかった可能性も高い。
- ・このことより、以降の担い手確保の検討においては死者数をベースにして行う。

図表3-9 平成18年豪雪における市町村別の死傷者数

地域区分1	地域区分2	市町村コード	市町村名	死者数(人)	死傷者数(人)	死傷者数÷死者数	
沿岸	能代山本地区	5202	能代市	0	10		
		5349	八峰町	0	2		
		5346	藤里町	1	3	3	
		5348	三種町	2	3	2	
	秋田中央地域	5201	秋田市	5	20	4	
		5206	男鹿市	0	5		
		5211	潟上市	0	0		
		5361	五城目町	1	2	2	
		5363	八郎潟町	1	3	3	
		5366	井川町	0	1		
		5368	大潟村	0	0		
	本荘由利地域	5210	由利本荘市	0	8		
		5214	にかほ市	0	0		
内陸	北秋鹿角地域	5204	大館市	1	22	22	
		5209	鹿角市	1	17	17	
		5213	北秋田市	1	19	19	
		5303	小坂町	0	1		
		5327	上小阿仁村	0	1		
	仙北平鹿地域	5215	仙北市	1	28	28	
		5212	大仙市	5	41	8	
		5203	横手市	2	30	15	
		5434	美郷町	2	10	5	
	湯沢雄勝地域	5207	湯沢市	1	19	19	
		5463	羽後町	0	5		
		5464	東成瀬村	0	1		
				合計	24	251	10

2) 担い手確保の状況

- ・平成 18 年度豪雪で死者が生じた市町村を対象として、除雪体制と気象変動の関連データを整理したものが図表 3 - 10 である。
- ・死者数が 5 人と最も多かった秋田市と大仙市をみると、両者はまったく異なる傾向を示していることがわかる。

〔秋田市の状況〕

- ・秋田市では、気象変動のデータが示すとおり、平時にはあまり降らないところに降雪があったことがわかる。平時の降雪量が少ないために、除雪車両や消融雪施設等のハード整備の水準も低く、またボランティア体制も構築されていない状況であった。
- ・秋田市は人口規模も大きく、また高齢化率も県内では低い状況である。秋田市よりも小さな市町村において、ボランティア体制が構築されていることを考えると、秋田市の場合、雪処理の担い手となる労働力は存在したが、平時からの体制づくりが十分にできていなかったために、彼らをうまく活用することができなかつたものと推察される。

〔大仙市の状況〕

- ・大仙市の場合をみると、雪の降り方については平年との格差は小さいことがわかる。またボランティア体制、除雪機械の保有状況、消融雪施設の整備状況のいずれをみても、一定水準が確保されている。それにもかかわらず多数の死者が生じたということは、自治体内の除雪対応能力を超えた降積雪のために雪処理の担い手が不足していたものと推察される。

図表 3 - 10 平成 18 年豪雪における死者が生じた市町村の除雪体制・気象変動

地域区分1	地域区分2	市町村名	特 豪	H17人口(人)	H17-H12人口(人)	H17高齢化率	除雪体制				気象変動			結果
							除雪ボランティア	H17年度除雪計画車両(台)	除雪支援者保有車両(台)	消融雪施設設置道路延長(m)	累計降雪量		除雪経費市町村道分	豪雪被害
											H17年度降雪量(cm)	H17/H15の倍率(倍)		
				人口千人あたりのボランティア数(人/千人)	人口千人あたりの除雪機械台数(台/千人)	人口千人あたりの除雪機械台数(台/千人)	人口千人あたりの設置道路延長(m/千人)							
沿岸	能代山本地域	藤里町		4,348	-360	35.4%	0.0	2.07	0.00	297	535	1.3	1.7	1
		三種町		20,438	-1,674	30.6%	3.6	2.25	5.82	0	452	3.9		2
	秋田中央地域	秋田市		333,109	-3,537	21.1%	0.0	1.11	0.69	56	447	2.9	5.9	5
		五城目町 八郎湯町		11,678 7,093	-694 -440	32.6% 28.3%	0.0 2.0	3.34 1.55	0.94 0.00	103 0	709	2.6	2.2 2.1	1 1
内陸	北秋鹿角地域	大館市		82,504	-3,784	28.8%	18.1	4.18	1.22	352	616	1.6	2.0	1
		鹿角市		36,753	-2,391	30.5%	8.7	3.62	2.88	74	822	1.6	1.4	1
		北秋田市		40,049	-2,001	32.6%	5.8	3.75	3.85	283	808	1.9	2.0	1
	仙北平鹿地域	仙北市		31,868	-1,697	30.8%	10.1	3.99	1.60	784	821	3.2		1
		大仙市		93,352	-4,974	29.6%	14.5	2.88	1.35	626	778	2.1	1.6	5
		横手市 美郷町		103,652 23,038	-5,352 -1,169	29.4% 29.3%	2.5 12.7	3.02 1.30	0.89 0.82	1,199 239	717 733	1.5 1.9	1.4 1.4	2 2
湯沢雄勝地域	湯沢市		55,290	-3,214	29.7%	29.3	3.64	0.09	1,137	913	1.8	1.1	1	
合計			1,145,501	-43,778									24	
平均1(全市町村)			45,820	-1,751	29.7%	10	3.05	1.59	330	576	1.91	2.52	1	
平均2(死者有り市町村)			64,859	-2,407	29.9%	8	2.82	1.55	396	696	2.18	2.08	2	
平均3(死者ゼロ市町村)			25,194	-1,041	29.4%	13	3.30	1.63	258	456	1.63	3.01	0	

■ : 全市町村平均よりも高いところ、上位3市町村
 ■ : 全市町村平均よりも低いところ、下位3市町村

〔その他の都市部の動向〕

- ・平成 18 年豪雪において死者が生じた市町村について、過去 3 年間の死者数の状況をみたものが図表 3 - 11 である。
- ・主に市部（特に特別豪雪地帯）において、毎年 1 名前後の死者が生じていることがわかる。
- ・このことから、平成 18 年豪雪で死者が生じた市部は、平成 18 年豪雪の影響というよりも、豪雪地帯固有の事情によって死者が生じた可能性が高いものと推察される。

図表 3 - 11 秋田県内の過去の雪による死者数の推移
（平成 18 年豪雪において死者が生じた市町村のみ）

	市町村名	死者数 (人)	過去の死者数(人)											
			H14.1～3		H14.4～12		H15.1～3		H15.4～12		H16.1～3		H16.4～12	
			市町村		市町村		市町村		市町村		市町村		市町村	
沿岸	能代山本地域	藤里町	1											
		三種町	2											
	秋田中央地域	秋田市	5											
		五城目町	1											
内陸	北秋鹿角地域	八郎潟町	1										1 八郎潟町	
		大館市	1							1 田代町*		1 大館市		
		鹿角市	1											
	仙北平鹿地域	北秋田市	1				1 森吉町*							
		仙北市	1											
		大仙市	5	2 大曲市、中仙町	1 大曲市					1 仙北町	2 大曲市、太田町			
		横手市	2	3 横手市、山内村*	1 雄物川町*	1 横手市			1 大森町*	1 平鹿町				
	湯沢雄勝地域	美郷町	2											
		湯沢市	1				1 湯沢市*			4 湯沢市*	1 湯沢市*			

資料：過去の死者数は豪雪地帯基礎調査による。
注1)現在の市町村の区域で過去の死者数をカウントしている。
注2)*は特別豪雪地帯をあらわす

〔その他の町村部の動向〕

- ・平成 18 年豪雪において死者が生じた市町村のうち、町村部については平年の死者も見られない。ボランティア体制や除雪機械の保有状況等もやや平均よりも低い水準となっている。
- ・人口規模が小さく、高齢化が進展しているため、お年寄りを助ける労働力が乏しいことも要因と考えられる。図表 3 - 12 は 65 歳以上人口に対する 65 歳未満人口の割合を示しており、秋田市では高齢者 1 人を 3.7 人で支えるのに対して、藤里町は 1.8 人で支えることになる。
- ・このことから、人口規模が小さく、高齢化率の高い藤里町や三種町、美郷町等においては、雪処理の担い手が不足していたものと推察される。

図表 3 - 12 高齢者 1 人あたりの壮年・青年の数

地域区分1	地域区分2	市町村名	特豪	a	b	c=a-b	d=c/b
				H17人口(人)	65歳以上人口(人)	65歳未満人口(人)	高齢者1人あたりの若者の数(人/人)
沿岸	能代山本地域	藤里町		4,348	1,541	2,807	1.82
		三種町		20,438	6,255	14,183	2.27
	秋田中央地域	秋田市		333,109	70,294	262,815	3.74
		五城目町		11,678	3,802	7,876	2.07
		八郎潟町		7,093	2,007	5,086	2.53
内陸	北秋鹿角地域	大館市		82,504	23,747	58,757	2.47
		鹿角市		36,753	11,222	25,531	2.28
		北秋田市		40,049	13,061	26,988	2.07
	仙北平鹿地域	仙北市		31,868	9,803	22,065	2.25
		大仙市		93,352	27,588	65,764	2.38
		横手市		103,652	30,447	73,205	2.40
		美郷町		23,038	6,761	16,277	2.41
	湯沢雄勝地域	湯沢市		55,290	16,436	38,854	2.36

図表 3 - 13 分析に使用したデータ一覧

地域区分1	地域区分2	市町村コード	市町村名	特 徴	H12人口(人)	H17人口(人)	H17-H12人口(人)	人口減少率	65歳以上人口(人)	H17高齢化率	除雪体制											気象変動					結果						
											除雪ボランティア					H17年度の除雪計画車両(台)					除雪支援業者保有車両(台)	消融雪施設設置道路延長(m)	累計降雪量		除雪経費市町村道分		豪雪被害						
											グループ数	人口千人あたりのボランティア数(人/千人)	市町村	県	国	合計	人口千人あたりの除雪機械台数(台/千人)	市町村	県	国	合計	人口千人あたりの除雪機械台数(台/千人)	人口千人あたりの設置道路延長(m/千人)	H17年度の降雪量(cm)	H15年度の降雪量(cm)	H17/H15の倍率	平成17年度の除雪経費(万円)	過去3年間の平均除雪経費(万円)	H17/過去3年間の倍率	死者数(人)	人口千人あたりの死者数(人/千人)	死者数(人)	人口千人あたりの死者数(人/千人)
沿岸	能代山本地域	5202 能代市	65237	62,858	-2,379	3.8%	18,253	29.0%	5	129	2.1	109	30	12	147	234	173	2.75	1,220	19	198	139	1.4	40,800	10,700	3.8	0	0.000	10	0.159			
		5349 八峰町	9698	9,012	-686	7.6%	2,875	31.9%	1	778	86.3	20	8	0	28	3.11	27	3.00	700	78	255	151	1.7	7,000	2,700	2.6	0	0.000	2	0.222			
		5348 三峰町	4708	4,348	-360	8.3%	1,541	36.4%	0	0	0.0	9	0	0	9	2.07	0	0.00	297	535	418	1.3	4,700	2,700	1.7	1	0.230	3	0.690				
		5201 秋田中央地域	33846	33,109	-737	2.2%	10,704	31.6%	2	74	3.6	39	7	0	46	2.25	119	5.92	0	0	452	116	3.9	14,680			2	0.098	3	0.147			
		5206 男鹿市	35711	35,814	103	-0.3%	7,978	22.3%	1	6	0.2	8	13	0	21	3.59	0	0.00	341	58	447	404	1.1	3,600	1,700	2.1	1	0.141	1	0.171			
		5211 湯沢市	11,678	11,678	0	0.0%	3,802	32.6%	1	14	2.0	11	0	0	11	1.55	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		5361 五城目町	7,633	7,093	-540	7.1%	2,007	26.3%	1	19	3.2	17	4	0	21	3.59	0	0.00	341	58	447	404	1.1	3,600	1,700	2.1	1	0.141	1	0.171			
		5368 大湯村	3,323	3,256	-67	2.1%	697	21.4%	0	0	0.0	9	2	0	11	3.38	0	0.00	0	0	447	155	2.9	2,500	1,100	2.3	0	0.000	0	0.000			
		5210 田代本荘市	89,555	89,555	0	0.0%	24,112	26.9%	2	39	0.4	217	64	11	292	3.26	151	1.69	23,134	258	268	173	1.5	40,527	32,303	1.3	0	0.000	8	0.089			
		5214 にかほ市	30,347	29,972	-375	1.2%	7,772	25.7%	1	0	0.0	81	0	0	81	2.11	43	1.48	4,578	158	210	314	0.7	12,200	10,000	1.2	0	0.000	0	0.000			
内陸	北秋鹿角地域	5204 大館市	86,286	82,504	-3,782	4.4%	23,747	27.5%	42	1,492	18.1	311	21	13	345	4.18	101	1.22	29,015	352	616	377	1.6	66,700	33,000	2.0	1	0.012	22	0.287			
		5209 鹿角市	39,144	36,753	-2,391	6.5%	11,222	30.5%	11	319	8.7	97	36	0	133	3.62	106	2.88	2,737	74	822	510	1.6	36,400	26,100	1.4	1	0.027	17	0.463			
		5213 北秋田市	42,050	40,049	-2,001	5.0%	13,061	32.6%	3	233	5.8	110	40	0	150	3.75	154	3.85	11,320	283	808	421	1.9	45,500	23,240	2.0	1	0.025	19	0.474			
		5303 小坂町	7,171	6,824	-347	5.1%	2,232	32.7%	1	235	34.4	14	19	0	33	4.84	31	4.54	1,580	232	500	542	0.9	4,296	3,335	1.3	0	0.000	1	0.147			
		5327 上小国村	3,369	3,107	-262	8.4%	1,243	40.0%	0	0	0.0	19	0	0	19	6.12	5	1.61	0	0	364	296	1.2	7,670	3,800	2.0	0	0.000	1	0.322			
		5215 仙北市	33,565	31,868	-1,697	5.3%	9,803	30.8%	8	323	10.1	70	35	22	127	3.99	51	1.60	24,973	784	821	260	3.2	27,700	16,000	1.7	1	0.031	28	0.879			
		5212 大仙市	98,326	93,352	-4,974	5.3%	27,588	29.6%	5	1,357	14.5	209	36	24	269	2.88	126	1.35	58,461	626	778	378	2.1	102,400	63,600	1.6	5	0.054	41	0.439			
		5203 横手市	109,004	103,652	-5,352	5.2%	30,447	29.4%	3	258	2.5	247	56	10	313	3.02	92	0.89	124,233	1,199	717	468	1.5	91,400	63,700	1.4	2	0.019	30	0.289			
		5434 美郷町	24,207	23,038	-1,169	5.1%	8,781	39.3%	2	292	12.7	30	0	0	30	1.30	19	0.82	5,497	239	733	395	1.9	25,500	18,270	1.4	2	0.087	10	0.434			
		5207 湯沢市	58,504	58,290	-214	0.4%	16,436	29.7%	8	1,618	29.3	143	41	17	201	3.64	5	0.09	62,848	1,137	913	506	1.8	60,000	55,000	1.1	1	0.018	19	0.344			
		5463 羽後町	19,485	18,267	-1,218	6.7%	5,553	30.4%	1	109	6.0	40	13	0	53	2.90	0	0.00	31,051	1,700	964	478	2.0	16,800	12,900	1.3	0	0.000	5	0.274			
		5464 東成瀬村	3,390	3,180	-210	6.6%	1,030	32.4%	0	0	0.0	17	0	0	17	5.35	0	0.00	0	0	1,718	540	984	835	1.2	0	0.000	1	0.314				
		合計	1,189,279	1,145,501	-43,778	3.7%	307,077	29.0%	108	7,919	21.95	504	122	2821	1,606	406,493																	
		平均1(全市町村)	47,571	45,820	-1,751	5.3%	12,283	29.7%	6	440	10	88	20	5	113	3.05	64	1.59	16,260	330	576	339	1.91	45,888	20,921	2.52	1	0.03	10	0.28			
		平均2(死者有り市町村)	67,266	64,859	-2,407	5.6%	17,151	29.9%	9	598	8	124	26	8	157	2.82	78	1.55	26,173	396	696	358	2.18	63,880	31,789	2.08	2	0.06	17	0.39			
		平均3(死者ゼロ市町村)	26,235	25,194	-1,041	5.0%	7,009	29.4%	3	242	13	49	14	2	65	3.30	49	1.63	5,520	258	456	319	1.63	22,499	8,967	3.01	0	0.000	3	0.115			

注1) H12-H17人口 国勢調査の結果を用いて、現時点の市町村に合算している。
 注2) 除雪ボランティア、H17年度の除雪計画車両、除雪支援業者保有車両
 秋田県総合災害対策協議会資料(秋田県知事公室総合防災課)より、以下の台数を計上した。
 除雪計画車両=H17年度のもの、除雪トラック、除雪ブレード、除雪ドーザ、小型ロータリ、薬剤散布車をカウント。
 除雪支援業者保有車両=専用除雪車両、バックホウ等、ダンプトラックをカウント。
 除雪ボランティアについては、H17年度当初に「除雪」活動を活動メニューとしてあげていた団体を指している。
 注3) 消融雪施設設置道路延長
 平成17年度豪雪被害基礎調査より、平成16年度時点で整備されている以下の消融雪施設の設置道路延長を計上した。
 流雪溝、消融雪溝、散水少雪パイプ、ロードヒーティング
 注4) 累計降雪量 平成16年度、平成18年度豪雪被害基礎調査より、市町村の代表地点の累計降雪量を計上した。
 注5) 除雪経費 秋田県総合災害対策協議会資料(秋田県知事公室総合防災課)より、

4) 課題を踏まえた実証実験の位置づけ

図表 3 - 14 課題を踏まえた担い手確保の方向性と実証実験の位置づけ

気象	都市規模	代表市町・死者数	担い手確保の状況と対応方向 (上記に対応する実証実験・実態調査)
少雪	都市	秋田市(5名)	<ul style="list-style-type: none"> 雪処理の担い手となる労働力は自治体内にあったが、数十年に1度の豪雪であったために、体制が十分に機能しなくて、突発的な降積雪に対応できなかった。 平成18年豪雪の教訓を踏まえて豪雪体制を構築することによって、地域内での担い手確保は可能であると考えられる。
	町村	三種町(2名) 八郎潟町(1名) 五城目町(1名)	<ul style="list-style-type: none"> 秋田市と同様に、数十年に1度の豪雪であったために、体制が機能しなかった。 人口規模は1万人未満であり、高齢化率も30%を超える自治体が多いため、豪雪時に地域内で担い手を確保していくのは難しくなる可能性が高い。 よって、豪雪時には周辺都市や県内各地、県外から除雪協力を得ることが求められる。
多雪	都市	大仙市(5名)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年一定量の降積雪があり、平時からの除雪体制も取られていたが、自治体の除雪対応力(ボランティア体制、除雪機械、消融雪施設整備等)を超えた降積雪のために、雪処理の担い手が不足してしまったものと考えられる。 そのため、平時から体制の増強を進めるとともに、豪雪時には周辺都市や県内各地、県外から除雪協力を得ることが求められる。 <p>【実証実験・実態調査】 除雪ボランティア組織実態調査 農業従事者の除雪協力の可能性検討調査</p>
		横手市(2名) 大館市(1名) 湯沢市(1名) 鹿角市(1名) 北秋田市(1名) 仙北市(1名)	<ul style="list-style-type: none"> 平年であっても毎年1名程度の除雪被害が生じている地域であることから、平成18年豪雪のために死者が生じたわけではないものと推察される。 地域内の除雪体制を維持していくことが求められる。
	町村	藤里町(1名) 美郷町(2名)	<ul style="list-style-type: none"> 豪雪地域であり、平時からの除雪体制が取れているにもかかわらず死者が生じている。 人口規模が1万人未満であり、高齢化率も藤里町では35.4%と高いため、高齢者をサポートできる地域内の人数が限られていたものと考えられる。地域内での雪処理の担い手不足が生じていたものと推察される。 そのため、平時から体制の増強を進めるとともに、豪雪時には周辺都市や県内各地、県外から除雪協力を得ることが求められる。 <p>【実証実験・実態調査】 北部地区の雪処理を考える懇談会(地域一斉除雪の可能性) 農業従事者の除雪協力の可能性検討調査</p>

注)上記の担い手確保とは別に、豪雪地帯特有の社会基盤としての流雪溝の管理運営という観点から、横手市において「流雪溝管理の現状と課題調査」を実施した。

3 - 2 秋田部会の実施体制と検討フレーム

3 - 2 - 1 秋田部会の実施体制

秋田における豪雪地帯の安心安全な地域づくりの検討に際して、学識経験者、社会福祉協議会、市民団体、行政担当者等からなる「秋田における安心安全な地域づくり検討部会」(秋田部会)を設置し、本調査に関する討議・議論及び成果のとりまとめを行うこととした。

本部会の構成メンバーは、図表3-15に示すとおりである。

図表3-15 秋田における安心安全な地域づくり検討部会 メンバー構成

座 長		
きむら かずひろ	木村 一裕	秋田大学 工学資源学部 土木環境工学科 教授
委 員		
あかひら かずお	赤平 一夫	湯沢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐
きくち まゆみ	菊地 まゆみ	藤里町社会福祉協議会 事務局長
つちだ てつお	土田 徹夫	横手市流雪溝利用組合連絡協議会 会長
なら ひろし	奈良 洋	秋田雪の会 会長
もりた かつとし	森田 勝利	大潟村社会福祉協議会 会長
よしだ けいじ	吉田 慶嗣	秋田県社会福祉協議会 常務理事
オブザーバー		
こんの けいじ	今野 敬二	国土交通省東北地方整備局 企画部 企画課 課長補佐
たくち ひでお	田口 秀男	秋田県 知事公室 総合防災課 主幹兼危機管理専門員
じんぶ ひでゆき	神部 秀行	秋田県 総務企画部 総合政策課 副主幹
たかはし みのる	高橋 実	横手市 建設部 建設監理課 総務管理担当 副主幹
		(敬称略)
事務局		
おいかわ たくや	笈川 卓也	秋田県社会福祉協議会 地域福祉部 秋田県ボランティアセンター 主事
しおみ いさお	塩見 一三男	株式会社日本能率協会総合研究所 地域政策研究部 第1グループ 室長
もろはし かずゆき	諸橋 和行	財団法人日本システム開発研究所 第二研究ユニット次長

3 - 2 - 2 秋田部会の検討フレーム

< 課題 1 > 地域一斉除雪の可能性を検討する

- ・ 公的な除雪支援や隣近所の除雪対応だけでは高齢者等の除雪支援が間に合わなかった。
- ・ 県内全域でのボランティア募集は少数参加であった。市町村単位では一定規模が確保された。
- ・ 他地域からの除雪ボランティア受け入れに対しては積極的ではない。
- ・ 今後は、自助（自分の家）、共助（近所の家）、公助（行政支援）、外部支援（地域外からの協力）が重層的に組み合わされた除雪協力関係を地域内に根付かせていくことが重要である。

地域内外の除雪協力関係を地域内に根付かせる
実証実験「北部地区の雪処理を考える座談会
～地域一斉除雪の可能性～（藤里町）」

< 課題 2 > 除雪ボランティア組織の活動を強化する

- ・ 現在、県内 18 市町村（全 25 市町村）において除雪ボランティア組織が活動している（グループ数：108、会員数：7,919 人）。
- ・ ボランティア活動を普及する上での問題として、「危険を伴う雪下ろし対応」、「作業員の事故や構造物破損への対応」、「突発災害への緊急対応・連携体制」、「民間営利団体との棲み分け」、「組織構成員の高齢化」などが指摘されている。
- ・ 各地域の除雪ボランティア組織を強化し、地域除雪力を強化することが必要である。

湯沢市の「除雪ボランティア組織」から学ぶ
「除雪ボランティア組織実態調査（湯沢市）」

< 課題 3 > 農業従事者の除雪協力の可能性を検討する

- ・ 秋田県の就業構造の特徴として、農業従事者の割合が高いことが挙げられる。
- ・ かつては、農作業が終了した冬期には出稼ぎに出ることが普通であったように、冬期間は比較的、余力があるものと推察される。
- ・ また、農作業用の機械を除雪用に転用することが実現できれば、新たな機械を購入しなくても地域の除雪対応力は高まることが期待できる。
- ・ そこで、農業従事者の除雪協力の可能性や協力条件等の基礎的データの収集を行い、今後の展開に結びつけていくことが重要と考える。

農業従事者の除雪協力の条件や可能性を検討する
「農業従事者の除雪協力の可能性検討調査（大湯村）」

< 課題 4 > 「流雪溝」の先進地域が直面する問題を把握する

- ・「流雪溝」は豪雪地帯特有の社会基盤であるが、近年、地区住民の高齢化や空洞化等による問題が進展している。
- ・横手市は「流雪溝」の全国的な先進地域であり、現在直面している問題や対応方向を全国的にフィードバックしていくことは、他の流雪溝を持つ地域の参考となりうる。

流雪溝の先進地域である横手市から知見を学ぶ
「流雪溝管理の現状と課題調査（横手市）」

図表 3 - 16 秋田部会の検討フレームの概要

検討手法	担い手確保			先進事例
	地域一斉除雪	除雪ボランティア組織	農業従事者	流雪溝管理
実証実験	北部地区の雪処理を考える座談会～地域一斉除雪の可能性～（藤里町）			
現地調査		除雪ボランティア組織実態調査（湯沢市）	農業従事者の除雪協力の可能性検討調査（大潟村）	流雪溝管理の現状と課題調査（横手市）

3 - 3 秋田部会の経過

3 - 3 - 1 第1回検討会議の開催

(1) 第1回検討会議の概要

日 時 : 平成18年12月13日(水) 14:00~16:15

場 所 : 秋田県庁第二庁舎4階 秋田県災害対策本部室

出席者 :

<座長>

木村 一裕 秋田大学 工学資源学部 土木環境工学科 教授

<委員>

赤平 一夫 湯沢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐

菊地まゆみ 藤里町社会福祉協議会 事務局長

土田 徹夫 横手市流雪溝利用組合連絡協議会 会長

奈良 洋 秋田雪の会 会長

森田 勝利 大潟村社会福祉協議会 会長

吉田 慶嗣 秋田県社会福祉協議会 常務理事

<オブザーバー>

今野 敬二 国土交通省東北地方整備局 企画部 企画課 課長補佐

田口 秀男 秋田県 知事公室 総合防災課 主幹兼危機管理専門員

神部 秀行 秋田県 総務企画部 総合政策課 副主幹 (当日代理出席 吉尾氏)

高橋 実 横手市 建設部 建設監理課 総務管理担当 副主幹

<事務局>

笈川 卓也 秋田県社会福祉協議会 地域福祉部 秋田県ボランティアセンター 主事

塩見一三男 株式会社日本能率協会総合研究所 地域政策研究部第1グループ 室長

諸橋 和行 財団法人日本システム開発研究所 第二研究ユニット次長

討議内容:

- (1) 本調査の趣旨及び秋田県における雪害対策の動向について
- (2) 雪処理の担い手確保に関する問題・課題について
- (3) 実証実験の進め方について
- (4) 雪処理支援ガイドブックについて
- (5) 次回ワークショップの日程等について
- (6) その他

(2) 第1回検討会議の討議内容(要旨)

1) 雪処理の担い手に関する問題・課題について

) 平成18年豪雪時の県内各地の状況

秋田市におけるH18豪雪時の担い手確保の状況

- 市内の高齢世帯は、まず行政に除雪を依頼したのだが、行政側でもう余裕がないためすぐに対応できない状況だった。そこで近所の人たちやシルバーセンター等をあたったが、そこでも自分のところで精一杯のため対応できなかった。

大湯村におけるH18豪雪時の担い手確保の状況

- 昨年は村で初めて雪捨て場が指定された。普段の年だと、好きなところに雪が捨てることができる。
- 自治会内は各自が持っている除雪機械によって結構早く問題は軽減された。
- 家の前の除雪や屋根雪下ろしを役場に依頼した高齢者が何軒もあったそうだが、村の中の業者によって対応できた。

藤里町におけるH18豪雪時の担い手確保の状況

- 藤里町は本来大雪に慣れていたつもりで、体制も頑張っ作っていたつもりだった。しかし、昨冬の豪雪時は、高齢者が困ったというよりも若い人たちがへばってしまったという状態であった。
- 藤里町の高齢者等の除雪支援については、「技能組合によるボランティア組織」や「出稼ぎに行かない人たちが登録するシルバーセンター」、「近所の協力」等が順番順番にやっているのだが、昨冬は、生活道路確保のために「技能組合」が駆り出され、「消防団」も駆り出され、そのしわ寄せが若い人たちに来た状態だった。

横手市におけるH18豪雪時の担い手確保の状況

- 12月の降雪は四八豪雪を思わせる規模であったが、結果としては流雪溝が整備されている地区はさほど被害はなかった。四八豪雪では市内交通は完全マヒであったが。

県内のボランティア参加の状況

- 県内全域が火事場の状態なので、実際のボランティア希望者は10数名であった。そして、県の職員がかなりの部分を占めていた。

県外のボランティア協力の状況

- 「震災をつなぐネットワーク」というボランティア団体がボランティア参加してくれたが、雪国の経験がないために、なかなか対応に苦慮した。
- 名古屋からスコップを送ってもらう際も「平」なのか「剣先」なのかも、先方はよくわからないみたいで戸惑った。

ボランティア受入に関する地域の意識

- 普段から雪対策に慣れているところと初体験みたいな地域があった。
- 今まで自分たちで対応してきたところは、「自分たちでできるのではないか」という考えがあったのではないか。
- 「余所に頼むにしても経験がないためどのように頼めばよいのか」、「外から来た人を、例えば大曲から現地までどのように移動してもらうのか」なども問題としてあったのではないか。

災害支援態勢の判断基準の遅れ

- 県社協では、県の災害対策本部ができ、その指示によって災害ボランティア支援センターを設立することになっているが、昨冬は県の対策本部がなかなかできなかった(注:12/26 秋田県雪害警戒部設置、1/5 秋田県雪害対策部に移行)。生活感覚とのズレがあり、県庁の福祉政策課と相談してボランティア支援センターを設けた経緯がある。

) 担い手確保を進める上での問題等

全般的な方向性

- H18 豪雪と同規模の降雪となった場合、自助では対応できない。共助あるいは公助が必要となるが、共助をうまく機能させるには相当システム化が必要ではないか。

学生・生徒を活用する上での課題

- 秋田県内の大館等、高校のボランティア活動は結構みられる。ただし、彼らを動員する場合には活動時間の制約がある。授業を潰さないため活動時間は土日に限られる。また、交通費の負担をどのように考えるのかも重要である。

秋田市内の除雪業者のスキルアップの方法

- 秋田市の除雪は下手であると言われるが、それは普段からやっていないから仕方がない。例えば、除雪業者を登録制にし、登録業者については除雪のやり方の事前トレーニングを課する等、ノウハウを伝授する仕組みを導入すればどうか。

県外からのボランティア参加の可能性

- 首都圏からのアクセス性の高い長野や新潟はボランティア参加がみられるようだが、秋田県の場合は難しいのではないか。

県内の地域性の違い

- 大館と湯沢では雪質が異なるため、雪処理の方法も違ってくる。湯沢のやり方が大館では通用しない。
- 大館の場合は一軒一軒事業者に任せているが、湯沢では社会福祉協議会が中心となってやっている。地域の除雪活動体制・ルールも地域独自のものがある。
- 自分の地域は自分でやるという方が秋田県らしいやり方ではないか。

高齢者の屋根転落事故の防止策

- 昨冬の県内死者は24名とのことだが、その大半は屋根雪処理に係わるものだと思う。雪が降るとやはりお年寄りには屋根に登りたくなる。多い雪になる前に下ろしたいからであり、これは秋田県人の性だと思う。
- 昨年のような死者を出さないためには、屋根に上がらないようにすることは無理だと思うので、どのように安全に屋根に登ってもらうかを考えた方がよいと思う。例えば命綱をつけて上がるとか。

農業従事者の除雪参加の可能性

- 農業従事者が多いのは秋田県の特徴である。これらの人が冬期、あるいは非常時に結集できるシステム化はできないものか。農家の人は冬期にはどういう作業をしているのか。
- 大潟村では、大型機械を保有する農家が多い。その整備に結構時間を取られる。またチューリップ等のハウスをやっているものは冬場も農作業が忙しい。

- 大湯村の農家が保有する機械の中で多いのはバックホーである。それからトラクターを持っており、トラクターにつけるバケットもあるのでローダー代わりになる。ローダーを持っている農業者は少ない。

) 平時から豪雪対策の必要性の意識付け、その方法として一斉除雪

日常的な豪雪対策の必要性

- そもそも自然災害の中での雪害の位置づけが低いのではないかと。台風や水害は日常的に防災意識も高まっているが、雪に関する限り、そういう意識は低い。
- 行政組織をみても総合的な豪雪対策のセクションがみられない。
- 豪雪になったから動くのではなく、日常的に豪雪対策を確立する、またその意識を持つておくことが重要である。

日常的な豪雪対策を浸透させる上での一斉除雪の有効性

- 豪雪になったから大騒ぎするのではなく、日常的に毎年いつ来るかわからない大雪対策をとる必要がある。その1つの提案として、藤里町で報告があった一斉除雪デーを設けることが有効なのではないか。
- その日は役所も休み、会社も休みとして、地域全員が参加すれば一番能率的である。
- 県でも一斉除雪を「対応指針」に入れようとした際、「言われなくても既にやっている」、「指針でやれと言われてもできない」など、各市町村の温度差が大きかった。
- 一度やってみて、まずければ改善していけばよいのではないかと。

藤里町における町外からのボランティア受入・一斉除雪の活動

- 藤里町では昨冬、町外からのボランティアの受け入れを行い、地区内の雪処理の順番や連絡調整等は社協が行った。
- 雪下ろしは毎日のことだが、ボランティアは1日限りのことなので、町外からボランティアを受け入れる場合、その後どのように繋げていくようにするのかに苦慮した。
- 結局、雪の一番多い地域を対象として、地区住民一斉雪下ろしの形態をとり、そこにボランティアも参加していただくこととした。
- 地区内の敷地内・生活道路の雪がなくなると、結構心の余裕ができたようで、その後は通常の冬のように過ごせた。言い方をかえると、一斉除雪を通じて、その地区に「化学変化」が起きたようなもの。
- ボランティアを受け入れる場合は、必要な時に地区のみんなで一斉除雪をすることがよいと思った。
- 行政の支援についても、住民主導で動いていたから、支援してもらうことができた。最初から行政にお願いする姿勢ではこうはいかなかったと思う。

〔藤里町一斉除雪の概要〕

- 対象地区：北部地区（地区内には4集落が点在）
- 世帯数：約50世帯（5世帯/集落～20世帯/集落）
- 高齢化率：50数%
- 地区内の住民は全員参加。除雪協力しない人は炊き出し部隊で参加。
- 住民の負担は労働力、炊出用の米、味噌。

- ・自治会・消防団の会費により小型ローダーを借上げ。
- ・除雪活動は、各敷地から道路まで雪を出せば、ローダーで排雪する。
- ・高齢のみの世帯や当日人手がなかった家について、ボランティアが参加。
- ・役場からもボランティアや大型ローダーを提供。

) 流雪溝

横手市の流雪溝の現状と課題

- ・今までは隣同士で助け合って活動できていたのだが、近年様々な問題が出てきている。
- ・1 つは高齢化によって、投雪活動に参加できない世帯が増えてきていること。
- ・2 つめは空き地や空き家が増えてきていること。流雪溝の受益者は電気料を組合単位で負担することになっているが、空き家がでると残りの組合員で負担しなくてはならない。
- ・3 つめとして、自分の敷地内に消融雪設備を整備する世帯が出はじめ、その世帯が流雪溝を使用しないのだから組合から脱退したいと言ってきている。この場合も、残りの組合員で電気料を負担しなくてはならなくなる。
- ・これに対して、空き家が出た場合や脱退した場合でも、組合員の1人あたり負担額は変わらないものとした。また、高齢化によって流雪溝への投雪活動を行うことも難しい世帯に対しては、市が「雪寄せ」や「雪下ろし」の費用を負担する制度を導入している。去年は雪寄せが80軒、雪下ろしが151軒利用している。

高齢化による負担感増大、「共助」意識の変化

- ・最近、流雪溝に間口の雪投げをしている時、元々は公道の雪が寄せられたものなのに、なぜ個人が対応しなくてはいけないのか、という声を聞くことがある。高齢化によって体力面で相当きつくなっていることが、このような発言に繋がっているのではないかと。

) 本調査の目的・進め方等

データによる裏付けの必要性

- ・これまでの議論はボランティアの話が多いように感じる。本調査は高齢化の進む東北にあって、豪雪になった場合の担い手確保をどのように進めていくかというものである。そこには、様々な問題点があり、それを1つ1つ検証していくことが必要だと思う。そういう議論をお願いしたい。例えば、「業者に頼みたいけど業者がいないがなぜか」、「除雪依頼の費用はもっと安くないのか」、「農業をやっている人には除雪協力してもらえないのか」等である。
- ・上記の点についてデータによる裏付けが欲しい。例えばボランティアに依存している量ほどの程度なのか。業者数はどの程度なのか、誰もわからないもので。
- ・この調査は担い手確保の可能性を検討する調査だと理解している。各担い手についてある程度データを元に議論した方がよい。

関連情報の収集状況

- ・秋田県社会福祉協議会では、昨冬の地域内の除排雪の担い手による対応状況について調査したものがある。

- 秋田県では、住民の除雪支援ができる建設関係業者数はデータベースとして把握している。
- 横手市では、市内 36 の業者が雪下ろし協力を実施している。

除雪態勢の水準について

- 常時の除雪体制をどの程度の水準まで確保しておくのかも議論する必要がある。
- 最大豪雪年に合わせて除雪態勢を常時保有することはやり過ぎだと思うので、ある水準を確保しておき、その水準を超えた部分については、別途対策メニューによって対応する等のシステム化を図ることも必要である。

）社会福祉協議会の役割

「トータルケア」の考え方に基づく雪処理対応

- 秋田県では毎年 1 万人ずつ人口が減少していている。そのような中、県社協としては様々な問題を解決するために「トータルケア」という考え方で取り組んでいる。高齢者等の雪対策についても、雪を下ろすだけでなく、安否確認、暖房機の安全性確認、燃料補給、医薬品の確認、通院、水道凍結、避難場所の確保等を総合的にケアすることを考えている。

雪害対策本部への社協の関与

- 現在の雪害対策本部は建設サイドが中心であり、住民の生活を見る面があまり入っていない。行政の対策本部に各地域の社協を是非参画させたい。

2) 実証実験の進め方について

湯沢市の状況

- 既に除雪ボランティア隊の今冬の結団式が済んでいる。後は日程を決めて来てもらえれば対応できる。

大瀧・藤里の実験準備

- いつ雪が降り出すかもわからない状況である。具体的にどのように進めるかを早急に詰めていく必要がある。
- 事務局としては、各実験地域の委員の方に具体的なスケジュール等を個別にあたる。

3) 雪処理支援ガイドブックについて

ガイドブックの著作権

- このガイドブックの著作権はどのようになるのかはっきりさせた方がよい。
- 元々は社会福祉協議会の事業として実施する予定だったものだが、今回の検討会議があるので、その中でも各委員から助言をいただくと、よりよいものができると考えて提示したものである。

4) その他

- 今までの話は対症療法である。それよりも恒久対策が重要なのではないか。要するに屋根雪下ろし不要な住宅づくりだと思う。
- 雪処理の担い手確保にとどまらず、バリアフリー社会の形成に関する基本計画の中で、雪をバリアと位置づけ、全庁的に対応していく必要があるのではないか。

3 - 3 - 2 現地会議の開催

日 時 : 平成 19 年 2 月 18 日 (日) 10 : 00 ~ 15 : 00

場 所 : 藤里町北部地区

参加者 :

- ・地元住民 (小林 (男性) 荒川 (男性) 市川 (男性) 市川 (女性) 市川 (女性))
- ・技能組合 (藤本)
- ・藤里町役場 (淡路)
- ・藤里町社会福祉協議会 (菊地)
- ・東京大学大学院 (太田)
- ・秋田部会 (木村、吉田、森田、菊池、奈良)
- ・国土交通省 (島多)
- ・秋田県社会福祉協議会 (笈川)
- ・株式会社日本能率協会総合研究所 (塩見) 敬称略

工 程 :

午前 北部地区現地視察

昼食 金沢地区集会所

午後 座談会

主な内容 :

(炊き出しについて)

- ・当初は、各戸で食事を用意するよりも地域全体で全員分を用意した方が効率的ではないか、とのねらいがあった。
- ・しかし、地元の説明する段階で、「ボランティアを接待するための食事提供」というようになったため、嫌な印象を持った一部の方がいた。

(除雪用ローダーについて)

- ・当初、地区住民の負担により、技能組合の小型除雪ローダーを準備していたが、実施直前になって、町所有の中型除雪ローダーを提供してくれた。
- ・町所有のものがなければ、人力だけでは処理できなかった。

(ボランティア参加について)

- ・「外部からボランティア参加がある」という話を聞いて、地域も全員で参加しなければならない、というように結束した。
- ・不慣れなボランティアの方は労働力としてはそんなに役にはたっていない。

(継続的な実施について)

- ・大潟村では 19 の住区のうち、2 つの住区では、住区の年間行事として毎年地区一斉除雪を実施している。昔は、その後食事会を開催していたが、今は飲酒運転や地元の負担のことがあるのでやらなくなってきたようである。
- ・北部地区でも、少雪年でもイベントのように継続して実施していくことが必要ではないか。

(平時の交流について)

- ・白神山地という観光資源を保有しているので、通年交流メニューを開拓して、冬期ボランティアへも発展していく方向性が期待できる。

3 - 3 - 3 第2回検討会議の開催

(1) 第2回検討会議の概要

日 時 : 平成19年3月6日(火) 14:00~16:30

場 所 : 秋田県社会福祉会館9階 第1会議室

出席者 :

<座長>

木村 一裕 秋田大学 工学資源学部 土木環境工学科 教授

<委員>

赤平 一夫 湯沢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐

土田 徹夫 横手市流雪溝利用組合連絡協議会 会長

奈良 洋 秋田雪の会 会長

森田 勝利 大潟村社会福祉協議会 会長

吉田 慶嗣 秋田県社会福祉協議会 常務理事

<オブザーバー>

今野 敬二 国土交通省東北地方整備局 企画部 企画課 課長補佐

田口 秀男 秋田県 知事公室 総合防災課 主幹兼危機管理専門員

高橋 実 横手市 建設部 建設監理課 総務管理担当 副主幹

山石 均 横手市 横手地域局 地域維持課 維持管理担当 副主査

<事務局>

笈川 卓也 秋田県社会福祉協議会 地域福祉部 秋田県ボランティアセンター 主事

塩見一三男 株式会社日本能率協会総合研究所 地域政策研究部第1グループ 室長

滝澤 充雅 財団法人日本システム開発研究所 第二研究ユニット 研究員

討議内容 :

(1) 平成18年豪雪における雪処理の担い手確保の状況のレビュー

(2) 実証実験・現地調査の報告

藤里町 北部地区の雪処理を考える座談会～地域一斉除雪の可能性～

湯沢市 除雪ボランティア組織実態調査

大潟村 農業従事者の除雪協力の可能性検討調査

横手市 流雪溝管理の現状と課題調査

(3) 本調査成果の今後の活用方法

(2) 第2回検討会議の討議内容(要旨)

1) 平成18年豪雪における雪処理の担い手確保の状況のレビュー

) 平成18年豪雪の被害の特徴について

- 平成18年豪雪の特徴には「低温」を伴った豪雪であった点がある。そのため心臓麻痺等の病死が多かったと思う。
- 県内の地域別の死傷者の分布をみると、住宅構造(雪下ろし不要な住宅)も死傷者数に影響しているのではないかと思う。
- 死者の原因もわかると良い。(注:資料の前段にて掲載している)
- 住民側でどの程度除雪機械を保有しているのか、あるいは行政からの貸与があるのか等も、地域の除雪対応力に関連してくると思う。
- 秋田市のボランティアがゼロということに驚いた。(注:H17年度当初に「除雪」活動を目的の一つとして登録されていたボランティア団体のことである。平時の雪が少ない地域では「除雪」活動を行うボランティア登録は少ない状況である。)
- 25市町村の並び順は市町村コード順ではなく、地域分布や市部・町村部別にした方がよい。
- 市内のどのような場所(注:市街地なのか郊外なのか、周辺の住宅の集積程度は、敷地の余裕のある地域なのかどうか)で死傷者が発生しているかがわかると良かった。
- どのような場所で亡くなっているかは個人情報保護法の関係から公表が難しい。
- 今回は死者数との関係から分析されているが、住宅被害との関係から要因分析する方向も考えられるのではないか。一度トライしてみたがなかなかうまくいかなかった。
- 地域別の除雪対応力をあらかずデータとして「除雪ボランティア数」はあるが、ここに隣近所同士での対応力をあらかずデータがあっても良い。

) 一斉雪下ろしの実施と行政の役割について

- 豪雪時に困るのは排雪である。屋根から下ろした雪の置き場所に皆は困っている。道路除雪と連携しなければ排雪することができない。そのためには、一斉除雪デーを設けて道路除雪と住宅排雪とを一斉に行う必要がある。
- 本調査は自助・共助等を中心としてまとめられているが、一斉除雪デー等における行政の役割についても記載が必要ではないか。(注:他の部会成果も踏まえてどのように記載するかを検討する。)

) 個人情報保護法に関連した雪処理弱者世帯情報の取扱いについて

- 独居老人世帯等の雪処理弱者の情報については、個人情報保護法に基づくならば、行政等はどこまで扱うことができるのか。
- 使用目的を明確にして、管理者がきちんと管理することで許されるのではないか。
- 湯沢のボランティア隊では、先方に事情を説明した上で、特別に個人名を公表しない範囲で使用している。
- 「要援護世帯の避難支援にガイドライン」が平成18年3月に改訂された。そこでは、行政が持つ個人情報をどこまで公表できるかが具体的に示されており、基本的には自主防災組織までは可能であることが追加されている。

2) 実証実験・現地調査の報告

) 藤里町：北部地区の雪処理を考える座談会～地域一斉除雪の可能性～について

- 藤里町のアンケート結果には属性情報もあると良かった。
- 北部地区では除雪機械を保有している世帯が少なかったように思った。

) 湯沢市：除雪ボランティア組織実態調査について

- 個人的には、今後の雪処理の担い手としては地域内の事業所が有望なのではないかと思う。企業を対象とした意識調査があると良かった。
- 県社協では今年度に除雪ボランティア登録を行ったが、企業からの応募は少ない。
- 湯沢市では、今年度は合併した町村部でのボランティア組織づくりを行った。町村部は大きな企業がないため、加盟団体は学校や特別養護老人ホーム等の施設職員であった。
- 例えばイオングループが地域貢献活動の一環としてグループをあげて除雪活動に協力するというような展開は考えられないものか。
- 企業によるボランティア活動の推進については、県社協でも取り組んだことがある。中小企業の場合は景気に左右されるところが大きかった。また、大企業の場合は割と協力的ではあるが、中央からの指示によって全国的に動いていく活動が多いため、除雪のようにある地域特有の活動まで広がらないように感じた。
- 企業のボランティア活動の情報がもっとあっても良かった。
- 大館市の除雪ボランティアは、企業中心に組織化されている。基本的な活動は土日である。

) 大潟村：農業従事者の除雪協力の可能性検討調査について

- アンケート結果で、ダンプや軽トラックを提供しても良い、とする意見が結構みられたのは意外だった。藤里町の現地調査に同行した際に感じたこととして、除雪の部分は地元の人達でできたとして、排雪の部分をどのようにするのか、ということが課題だったと思う。そのような時に小回りの効く軽トラックや2トンダンプがあると効果的だと思った。
- 藤里町と大潟村とは普段からの交流活動（例：スキー交流）等を通じて地域間の連携関係を強化していく方向性が期待できるのではないか。

) 横手市：流雪溝管理の現状と課題調査について

- 秋田県のスポーツ科学センターの職員が、腰痛や肩の痛さを軽減する「雪はねの仕方」を提案していた。他には「スノーダンプ体操」という活動もある。これは、健康づくりによって医療費を下げる意図から進められている。

) 結果の総括について

- 本日の資料だと、最後の方向性の部分が不十分である。今回の4地区の結果等を踏まえながら秋田県内の担い手確保を考えていくわけであるから。
- 最後の調査結果の総括部分については、他の専門部会の記載内容を踏まえながら、木村座長と協議した上でとりまとめていく。
- 今回検討した担い手確保対策の施策の全体像がわかる資料を入れて欲しい。

3 - 4 調査及び実証実験の報告

3 - 4 - 1 北部地区の雪処理を考える座談会～地域一斉除雪の可能性～

(1) 実証実験の概要

1) 実証実験の内容

- ・藤里町の特定集落を対象として、集落住民、社協・行政、自治体内ボランティア組織、自治体外ボランティア協力者が参加する「地域一斉除雪」について、昨年度実施された取組に関する地域住民による座談会を開催する。
- ・昨年度の「地域一斉除雪」の手順、関係者の役割、関係者の評価を記録するとともに、藤里町において定着させる上での課題点を明らかにする。

2) 日時

平成 19 年 2 月 18 日 (日) 10:00～15:00

3) 開催場所

藤里町北部地区

4) 事前準備事項 (集落住民に対する事前アンケート調査)

- ・対象者 : 北部地区の全ての住民
- ・配布・回収 : 地区担当民政委員・社協福祉員を通じて配布回収 (2/13 配布、2/16 回収)

5) タイムスケジュール

10:00 集合 (場所: 藤里町社会福祉協議会)

10:15 対象集落の現地視察

- ・車で移動、集落内を歩く
- ・集落代表の方に平成 18 年豪雪時の状況を説明いただく

12:00 地区内集会所において昼食 弁当を事務局にて用意

13:00 「北部地区の雪処理を考える座談会」の実施

参加者: 地元住民 5 名 (男性 3 名、女性 2 名)

技能組合 1 名

藤里町役場 1 名

藤里町社会福祉協議会 1 名

東京大学大学院 1 名

秋田部会 5 名

国土交通省 1 名

秋田県社会福祉協議会 1 名

(株)日本能率協会総合研究所 1 名

場 所: 金沢地区集会所

議 事: 昨年の地域一斉除雪の反省点
地域一斉除雪の定着に向けて

15:00 終了

(2) 藤里町及び対象地区の概要

1) 藤里町の位置・アクセス

- ・藤里町は秋田県北部に位置し、大館能代空港からは概ね 30 分の距離にある。

図表 3 - 16 藤里町の位置・アクセス



- 【飛行機のご利用】
 - 羽田 (60分) 大館能代空港 (30分) 藤里町
 - 羽田 (60分) 秋田空港 (10分) JR秋田駅 (60分)
 - JR二ツ井駅(駅から定期バス 30分で役場所在地)
- 【JRのご利用】
 - 東京駅 (4時間) JR秋田駅 (60分) JR二ツ井駅(駅から定期バス 30分で役場所在地)
- 【お車のご利用】
 - 「東北自動車道」十和田IC 二ツ井町(国道103号線・国道7号線:70分)県道317号線を北上約10分で役場所在地
 - 秋田市 二ツ井町(国道7号線:100分)(以下同)

出典：藤里町 HP

2) 人口

- ・藤里町の高齢化率は 35.5% であり、秋田県の 26.9% に比べると 9 ポイント近く上回る。
- ・就業構造では、秋田県に比べると農業従事者、建設業従事者の割合が高くなっている。

図表 3 - 17 藤里町及び実証実験実施地域の高齢化の動向

[秋田県]				[横手市]			
	総数	男性	女性		総数	男性	女性
総数	1,145,501	540,539	604,962	総数	103,652	48,811	54,841
15歳未満	142,507	72,796	69,711	15歳未満	12,822	6,585	6,237
15～64歳	694,288	344,223	350,065	15～64歳	60,341	29,988	30,353
65歳以上	308,193	123,233	184,960	65歳以上	30,489	12,238	18,251
75歳以上	147,870	52,951	94,919	75歳以上	15,375	5,565	9,810
85歳以上	34,147	9,414	24,733	85歳以上	3,564	1,022	2,542
年齢別割合(%)				年齢別割合(%)			
15歳未満	12.4	13.5	11.5	15歳未満	12.4	13.5	11.4
15～64歳	60.6	63.7	57.9	15～64歳	58.2	61.4	55.3
65歳以上	26.9	22.8	30.6	65歳以上	29.4	25.1	33.3
75歳以上	12.9	9.8	15.7	75歳以上	14.8	11.4	17.9
85歳以上	3.0	1.7	4.1	85歳以上	3.4	2.1	4.6
平均年齢	47.1	45.0	49.0	平均年齢	48.4	46.2	50.4

[湯沢市]				[藤里町]			
	総数	男性	女性		総数	男性	女性
総数	55,290	26,181	29,109	総数	4,348	2,092	2,256
15歳未満	7,038	3,535	3,503	15歳未満	417	230	187
15～64歳	31,759	15,914	15,845	15～64歳	2,387	1,244	1,143
65歳以上	16,493	6,732	9,761	65歳以上	1,544	618	926
75歳以上	8,280	3,114	5,166	75歳以上	816	300	516
85歳以上	1,844	576	1,268	85歳以上	214	55	159
年齢別割合(%)				年齢別割合(%)			
15歳未満	12.7	13.5	12.0	15歳未満	9.6	11.0	8.3
15～64歳	57.4	60.8	54.4	15～64歳	54.9	59.5	50.7
65歳以上	29.8	25.7	33.5	65歳以上	35.5	29.5	41.0
75歳以上	15.0	11.9	17.7	75歳以上	18.8	14.3	22.9
85歳以上	3.3	2.2	4.4	85歳以上	4.9	2.6	7.0
平均年齢	48.5	46.5	50.3	平均年齢	52.2	49.3	54.8

[大湯村]			
	総数	男性	女性
総数	3,256	1,626	1,630
15歳未満	556	300	256
15～64歳	2,022	1,016	1,006
65歳以上	678	310	368
75歳以上	263	96	167
85歳以上	93	22	71
年齢別割合(%)			
15歳未満	17.1	18.5	15.7
15～64歳	62.1	62.5	61.7
65歳以上	20.8	19.1	22.6
75歳以上	8.1	5.9	10.2
85歳以上	2.9	1.4	4.4
平均年齢	42.7	40.8	44.5

資料：国勢調査(H17)

図表 3 - 18 藤里町及び実証実験実施地域の就業構造

[実数] 単位:人

	15歳以上の総人口 (労働力状態不詳を含む)	労働力人口							非労働力人口		
		総数	就業者					完全失業者	うち家事	うち通学	
			総数	主に仕事	家事のほか仕事	通学のかたわら仕事	休業者				
秋田県	1,002,481	585,921	549,994	467,073	72,745	2,797	7,379	35,927	408,589	164,755	52,875
秋田市	288,869	165,321	154,424	130,455	19,685	1,989	2,295	10,897	117,528	51,318	19,163
横手市	90,830	55,041	52,331	44,359	7,338	59	575	2,710	35,669	14,362	4,105
湯沢市	48,252	28,516	27,033	22,906	3,713	15	399	1,483	19,561	7,725	2,211
藤里町	3,931	2,203	2,055	1,718	290	47	148	178	1,728	637	189
大潟村	2,700	2,102	2,069	1,655	364	40	10	33	598	129	246

[構成比]

	15歳以上の総人口 (労働力状態不詳を含む)	労働力人口							非労働力人口		
		総数	就業者					完全失業者	うち家事	うち通学	
			総数	主に仕事	家事のほか仕事	通学のかたわら仕事	休業者				
秋田県	100%	58%	55%	47%	7%	0%	1%	4%	41%	16%	5%
秋田市	100%	57%	53%	45%	7%	1%	1%	4%	41%	18%	7%
横手市	100%	61%	58%	49%	8%	0%	1%	3%	39%	16%	5%
湯沢市	100%	59%	56%	47%	8%	0%	1%	3%	41%	16%	5%
藤里町	100%	56%	52%	44%	7%	1%	4%	44%	16%	5%	
大潟村	100%	78%	77%	61%	13%	1%	0%	1%	22%	5%	9%

資料: 国勢調査 (H17)

図表 3 - 19 藤里町及び実証実験実施地域の産業構造

[実数] 単位:人

市町村	総数 (15歳以上の就業者数)	産業 (大分類)																(再掲)				
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業 (他に分類されないもの)	公務 (他に分類されないもの)	第一次産業	第二次産業	第三次産業
県計	549,994	58,282	1,923	1,102	817	61,108	84,955	2,711	5,695	21,163	94,916	10,495	2,557	26,205	53,857	22,243	9,716	65,851	23,164	61,307	146,880	338,573
秋田市	154,424	3,994	271	21	129	13,661	13,523	1,222	3,765	7,830	33,015	5,015	1,504	8,700	16,012	8,647	1,469	24,476	8,895	4,286	27,313	120,550
横手市	52,331	9,212	67	7	21	5,092	9,217	164	191	1,601	8,898	739	126	2,165	4,661	1,877	1,023	5,318	1,862	9,286	14,330	28,625
湯沢市	27,033	3,573	104	11	101	2,715	6,613	80	95	739	4,140	316	89	1,265	2,307	892	577	2,393	960	3,688	9,429	13,853
藤里町	2,055	328	64		29	265	389	11	4	59	221	17	3	79	212	50	47	177	100	392	683	980
大潟村	2,069	1,612			7	19	4		4	88	10	1	45	47	73	33	74	45	1,612	26	424	

[構成比]

市町村	総数	産業 (大分類)																(再掲)				
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業 (他に分類されないもの)	公務 (他に分類されないもの)	第一次産業	第二次産業	第三次産業
県計	100%	11%	0%	0%	0%	11%	15%	0%	1%	4%	17%	2%	0%	5%	10%	4%	2%	12%	4%	11%	27%	62%
秋田市	100%	3%	0%	0%	0%	9%	9%	1%	2%	5%	21%	3%	1%	6%	10%	6%	1%	16%	6%	3%	18%	78%
横手市	100%	18%	0%	0%	0%	10%	18%	0%	0%	3%	17%	1%	0%	4%	9%	4%	2%	10%	4%	18%	27%	55%
湯沢市	100%	13%	0%	0%	0%	10%	24%	0%	0%	3%	15%	1%	0%	5%	9%	3%	2%	9%	4%	14%	35%	51%
藤里町	100%	16%	3%		1%	13%	19%	1%	0%	3%	11%	1%	0%	4%	10%	2%	2%	9%	5%	19%	33%	48%
大潟村	100%	78%			0%	1%	0%		0%	4%	0%	0%	2%	2%	4%	2%	4%	2%	78%	1%	20%	

資料: 国勢調査 (H17)

3) 実験対象地区の位置、居住者の属性

- ・北部地区は、「上茶屋」、「金沢」、「真名子」、「向真名子」の4集落から構成されている。
- ・約50世帯から構成され、高齢者のみの世帯が約半数を占めている。

図表 3 - 20 北部地区の人口構成

集落名	世帯数	高齢者のみ世帯
金沢	19世帯	9世帯(47.3%)
上茶屋	14世帯	7世帯(50.0%)
真名子	11世帯	5世帯(45.4%)
向真名子	5世帯	4世帯(80.0%)
計	49世帯	25世帯(51.0%)

図表 3 - 21 実証実験実施地区の位置と集落の状況

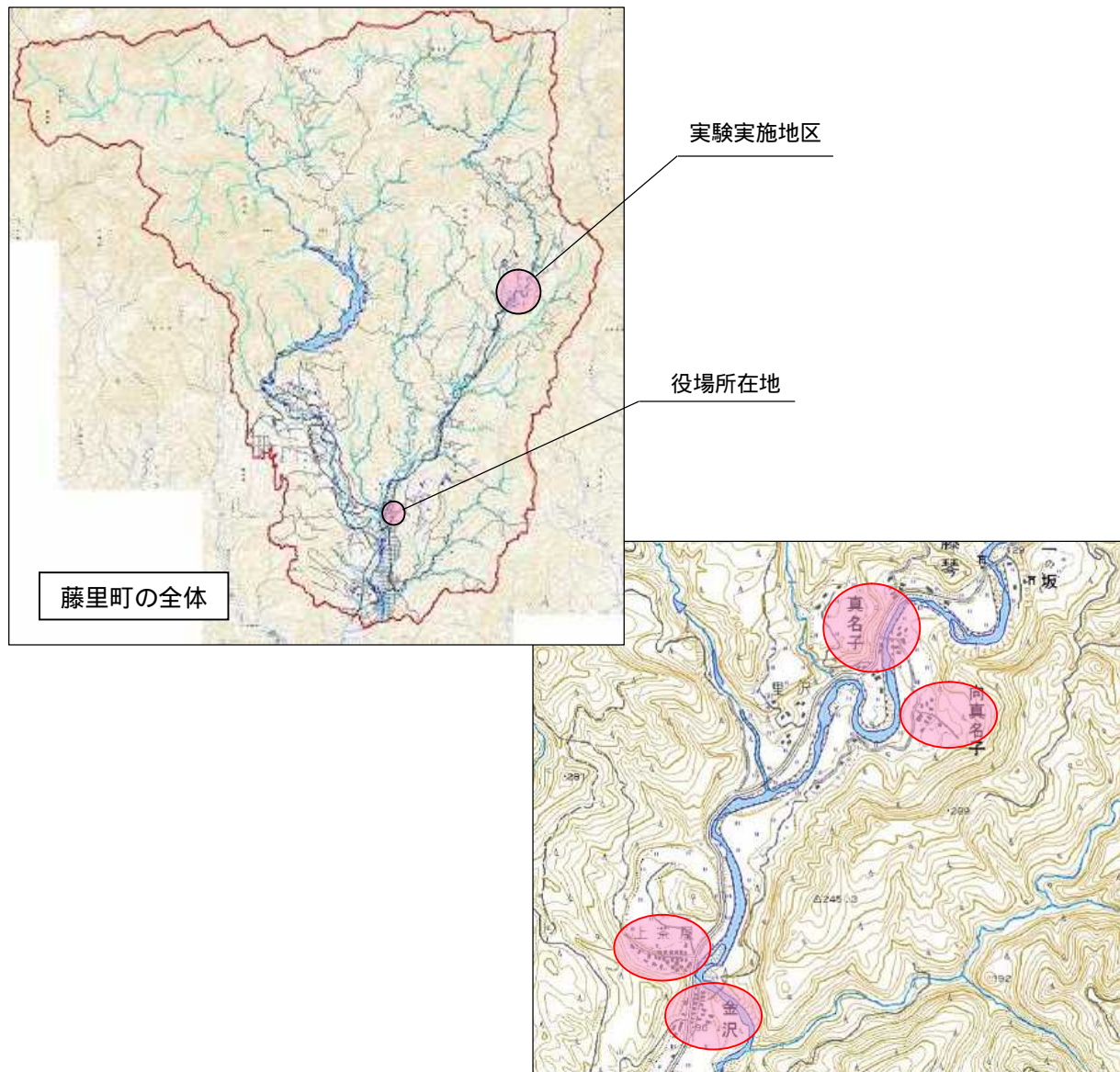


写真 3 - 1 金沢地区：地区内の中心道路 1

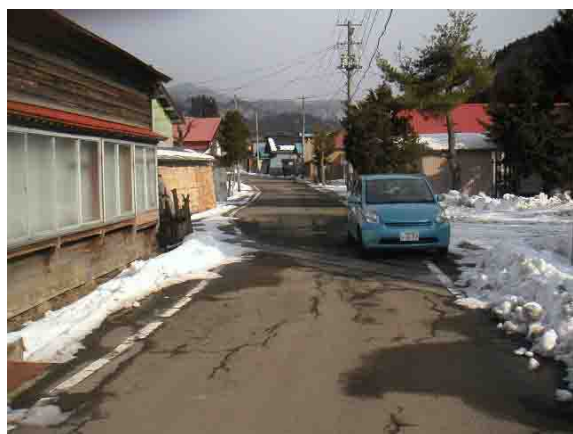


写真 3 - 2 金沢地区：地区内の中心道路 2



写真 3 - 3 金沢地区：敷地内の状況



写真 3 - 4 上茶屋地区：地区内の中心道路 1



写真 3 - 5 上茶屋地区：地区内の中心道路 2



写真 3 - 6 上茶屋地区：地区内の空家



写真 3 - 7 向真名子地区：地区唯一の入口



写真 3 - 8 向真名子地区：H18 豪雪を契機として冬期居住施設に移住した人の家屋



写真 3 - 9 向真名子地区：大きな住宅は空家、小さな住宅に居住



写真 3 - 10 真名子地区：幹線道路からの地区の入口付近

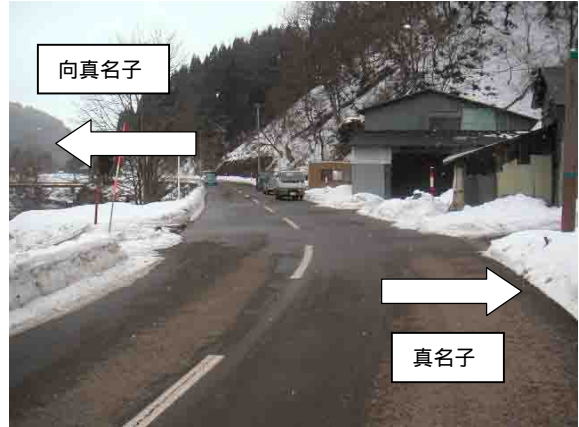


写真 3 - 11 真名子地区：地区内の中心道路



写真 3 - 12 真名子地区：地区内の住宅



(3) 平成17年度地域一斉除雪の概要

1) 実施の背景

- ・平成17年12月からの大雪によって県内各地で大雪被害が発生していた。
- ・秋田県災害ボランティアセンターでは、大雪により被害を受けている高齢者、障害者などの要援護者世帯の除雪活動を行うボランティアを募集し、北秋田市(阿仁地区)、藤里町において、地域外からの除雪ボランティアによる支援活動を行うことになった。
- ・特に、藤里町においては、地域外からのボランティア受入と同時に地区住民一斉による除排雪活動を行うことになった。

2) 活動目的

- ・自分の家の除雪だけで精一杯という状況を解消し、近隣の要援護世帯等の状況に目を向けられるような状況をつくること。
- ・地域の住民同士で助けあう気運を高めること。
- ・ボランティアが入ることをきっかけとして、地域住民自身が立ち上がる意識を喚起すること。
- ・地区の住民が自発的に動いたことを他地区へ波及させること。
- ・単発的な実施ではなく必要に応じて継続的に実施すること。

3) 日時

- ・平成18年1月21日(土) 午前9時から午後3時

4) 対象地域

- ・秋田県山本郡藤里町 北部地区(金沢、上茶屋、真名子、向真名子) 全世帯

【対象地域の当時の状況】

- ・約半数の世帯が高齢者のみの世帯であり、日中は高齢者のみの世帯も多い。
- ・積雪の状況から対象世帯を区別した除雪は不可能。

5) 参加者数

- ・約74名、内訳は以下のとおりである。

【参加者の内訳】

区 分	人 数
地域住民	50名
藤里町社会福祉協議会職員	6名
藤里町役場職員	9名
地域外ボランティア	9名
計	74名

概数

6) 取組内容

- ・各世帯の雪を道路まで出す作業を対象地域の住民が中心となっていく。
- ・道路まで雪を出すのが困難な世帯についてはボランティアが支援する。
- ・道路に出された雪は自治会等が手配したローダー（2台）で排雪する。
- ・ボランティアは対象区域を担当する民生委員の指示のもとで活動する。

7) 協力機関

- ・北部地区自治会、北部地区活性化推進協議会、北部地区消防団、藤里町役場、藤里町社会福祉協議会、秋田県災害ボランティア支援センター

【藤里町役場からの協力内容】

大型重機 1 台提供（自治会が手配したものと別）

天候の状況を見て、雪が降っていない場合を条件に提供。

オペレーターは役場職員がボランティアとして対応。

8) 準備の状況

平成 18 年 1 月 13 日（金）	秋田県社協「秋田県災害ボランティア支援センター」の設置 ・秋田市、北秋田市、藤里町での除雪等のボランティアの募集を開始
1 月 14 日（土）	秋田県災害ボランティア支援センターと現地社協と打合せ 〔打合せ事項〕 ・地域の除排雪ニーズの確認 ・対象地域の確定 ・ボランティア受入れ体制づくり、職員（コーディネーター）の配置 ・1 世帯あたりに必要なボランティア・職員数、チーム編成 ・ボランティアの駐車場、休憩場所などの確認 ・ボランティアへの道案内など同行できる職員、地元ボランティアの有無 ・除排雪活動に活用できる資材・機材の確認 ・災害対策本部との連携状況
1 月 16 日（月）	藤里町の民生児童委員協議会において最終的な受入れ地域を確定
1 月 21 日（土）	北部地区地域一斉除雪の実施

9) 当日の流れ

9:00~9:10	オリエンテーション	活動内容の説明、諸注意
9:10~9:20	班別ミーティング	それぞれの活動先の状況の確認
9:20~9:40	活動先への移動	
9:50~12:00	除雪活動	
12:00~13:00	昼食	地区内の集会所にて昼食・休憩
13:00~15:00	除雪活動	

10) 活動の状況

【家屋周辺の除雪】

写真 3 - 13 活動前のミーティング



写真 3 - 14 除雪前の状況



写真 3 - 15 家屋周辺の除雪 1



写真 3 - 16 家屋周辺の除雪 2



写真 3 - 17 除雪後の状況



【生活道路の除雪】

写真 3 - 18 除雪前の状況



写真 3 - 19 道路の除雪 1



写真 3 - 20 家屋から道路へ



写真 3 - 21 道路の除雪 2



写真 3 - 22 除雪後の状況



〔参考〕新聞報道 秋田魁新報 平成 18年5月7日

(1) 第41361号 1892年(明治25年)3月10日第3巻第10号 18.5.7(土) 禾火

地域力 人間力

第4部 ともに歩む

①

人々が集い、活動して
生まれるものは「地域力」
「人間力」である。「地域力」
は「人間力」の集まりで、現代社
会では、人口減少、少子高齢
化、核家族化が進み、
地域のつながりが希薄にな
る一方だ。それでも、
因縁で風雪を乗り越えて
住民の暮らしを支える
地域力、行政の支援
を住民のボランティアで
埋め合わせる地域の形を
模索する動きも目立ちて
いる。そんな地域の姿を
追った。

藤里町の雪寄せ

住民総出で支え合い

大切なのは、何ができるか考え行動すること

なれば、昔ながらの「田」をた
き、雪寄せの「田」の自然な
まわりの風景が復活してい
る地域が話題に上った。

藤里町北部の田舎町は、
その昔、この除雪作業を住民
総出で、しかも半日単位で
行っていた。

雪寄せの通路を確保する
ための町の無料サービスもあ
るが、今冬は雪量の多さで
も昔と、雪寄せに回った。
そんな中、町社協協が「震災

の、自分たちは何もしてい
ないでは申しない。」「自分
たちでできることをしたい。」「
たいし思いが強くあった」と
表現に奔走した市川自治会
長。

「雪寄せは、一戸一戸に回って
金銭は関係ない。」「町社協
も、除雪機を貸して、雪寄せ
の、除雪機を貸して、雪寄せ

も、北部地域の田舎町四十
九戸の、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ

雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ
の、雪寄せの、雪寄せの、雪寄せ



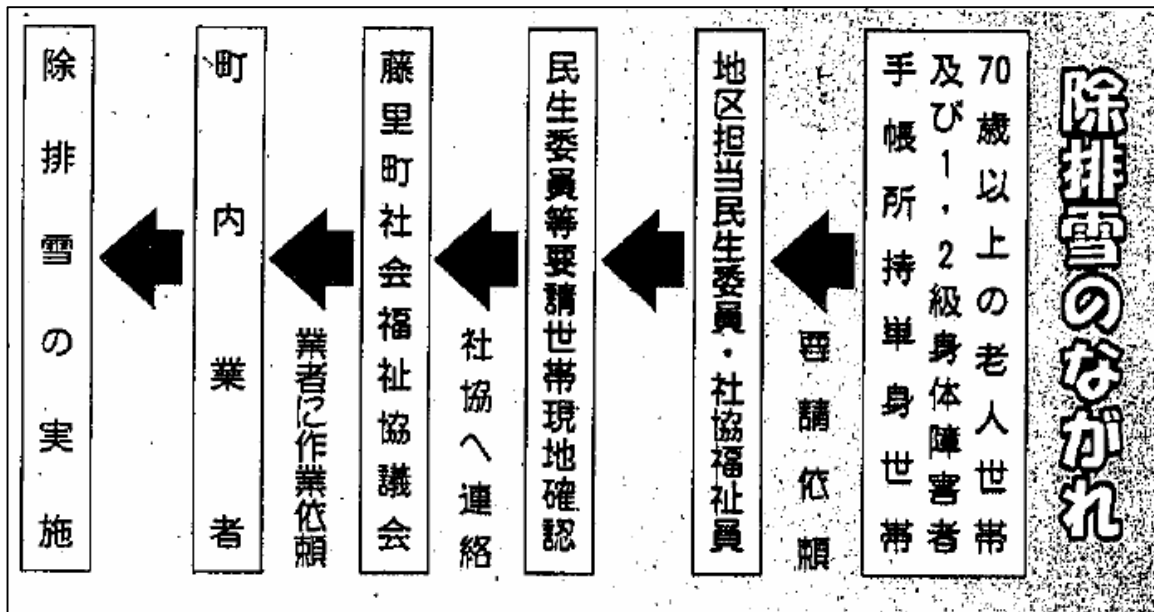
住民総出で行われた藤里町北部4集落の除雪作業—ことし1月21日

ご意見・ご感想は〒010-8601(住所不詳)秋田魁新報(あきた地域力・人間力)取材班へ、
ファクス018-828-2080、メールアドレスhnod@sakigate.jpです。

(4) 藤里町における除雪態勢

- ・ 藤里町では、70 歳以上の老人世帯等を対象として、1 年間に 3 回まで利用可能な、家の玄関周辺の除雪事業を実施している。
- ・ 本人から地区担当民生委員・社協福祉員に要請し、要請後に地区担当民生委員等が現地を確認して、必要と判断した場合に民生委員等から町の社協に要請する流れとなる。
- ・ 実際の除排雪は、町社協が契約している業者が行っている。

図表 3 - 22 藤里町の住宅除排雪事業の概要



資料：藤里町資料

注) 対象世帯：満 70 歳以上の老人世帯及び 1 級・2 級の身体障害者手帳を所持する単身世帯
 利用状況：降雪により堆積した圧雪の深さが 20 cm 以上の時、除排雪することが困難な場合
 利用範囲：玄関から道路までの間と、緊急用非常口としてもう 1 カ所を 1m 程度の幅で除雪
 利用回数：3 回/年

(5) 集落住民アンケート調査結果

1) 調査概要

調査実施時期：平成19年2月8日～16日
 調査対象世帯：北部地区の全世帯数（約50世帯）
 回収数：34世帯（回収率68%）

2) 自宅の屋根雪下ろし・家の周囲の除雪の実施状況

- ・平均的な積雪年の屋根雪下ろし回数は2.3回であるが、平成18年豪雪では3.3回と1回程度の増加となっている。
- ・屋根雪下ろしの担い手としても、8割以上が家族内で対応している状況であるが、平成18年豪雪の時は無償ボランティアや有償業者を利用する割合が高まっている。
- ・家の周囲の除排雪については、平成18年豪雪では、社協職員、民生委員、役場職員に依頼される割合が高まっている。

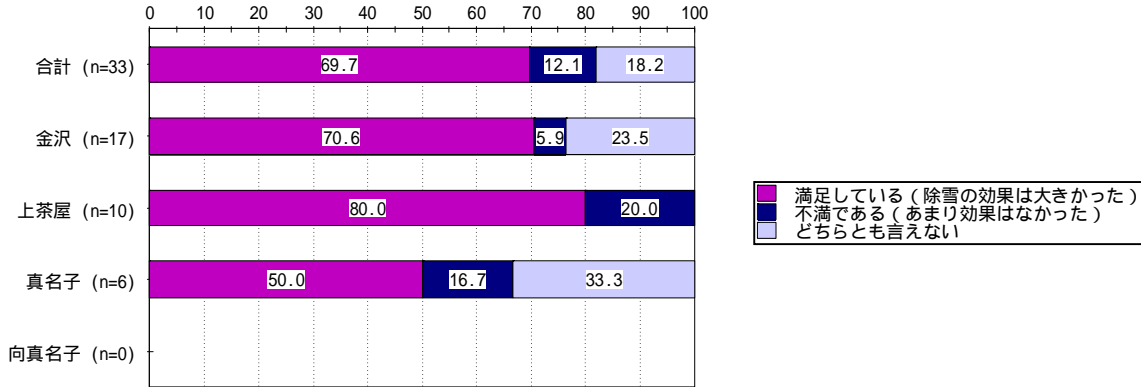
図表3-23 藤里町の北部地区における除排雪の実施状況

		平均的な積雪年		平成18年豪雪	
屋根雪下ろし回数		2.3回		3.3回	
主な担い手	屋根雪下ろし	家族内	84.4% (27世帯)	家族内	81.3% (26世帯)
		近所・町内会	6.3% (3世帯)	近所・町内会	3.1% (1世帯)
		無償ボランティア	0.0% (1世帯)	無償ボランティア	6.3% (2世帯)
		有償業者	3.1% (1世帯)	有償業者	9.4% (3世帯)
		社協職員・民生委員	3.1% (1世帯)	社協職員・民生委員	0.0%
		役場職員	3.1% (1世帯)	役場職員	0.0%
		その他	0.0%	その他	0.0%
	家の周囲の除雪	家族内	81.8% (27世帯)	家族内	79.4% (27世帯)
		近所・町内会	9.1% (3世帯)	近所・町内会	8.8% (3世帯)
		無償ボランティア	3.0% (1世帯)	無償ボランティア	2.9% (1世帯)
		有償業者	6.1% (2世帯)	有償業者	2.9% (1世帯)
		社協職員・民生委員	0.0%	社協職員・民生委員	2.9% (1世帯)
		役場職員	0.0%	役場職員	2.9% (1世帯)
		その他	0.0%	その他	0.0%

3) 地域一斉除雪の感想（除雪効果について）

- ・7割近くは満足している。

図表 3 - 24 平成 17 年度の地域一斉除雪の感想（除雪効果）



地域一斉除雪の感想（除雪効果） × 地区名

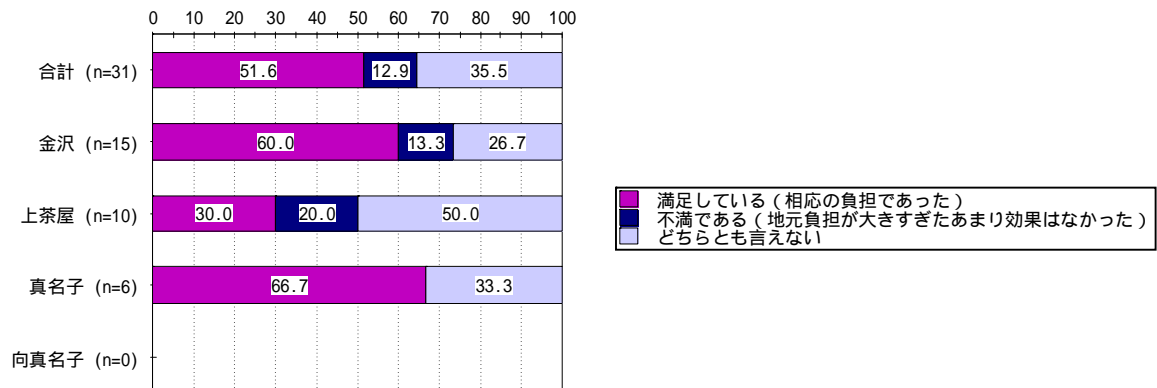
【不満者の理由】

- ・部分的にしか出来なかった。
- ・自分の所は除雪してもらえなかった。

4) 地域一斉除雪の感想（地元負担：除雪協力、炊き出し、食材提供などについて）

- ・5割強の世帯は満足しているが、どちらとも言えない世帯も3割強ある。

図表 3 - 25 平成 17 年度の地域一斉除雪の感想（地元負担）

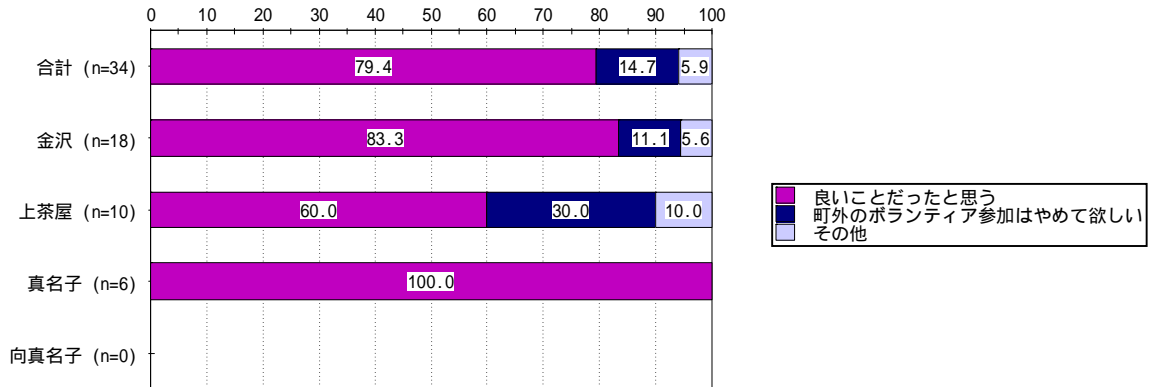


地域一斉除雪の感想（地元負担：除雪協力、炊き出し、食材提供等） × 地区名

5) 地域一斉除雪の感想 (町外からのボランティア受入れについて)

- ・8割近くの家帯は満足している。

図表 3 - 26 平成 17 年度の地域一斉除雪の感想 (町外からのボランティア受入)



地域一斉除雪の感想 (町外からのボランティア参加について) × 地区名

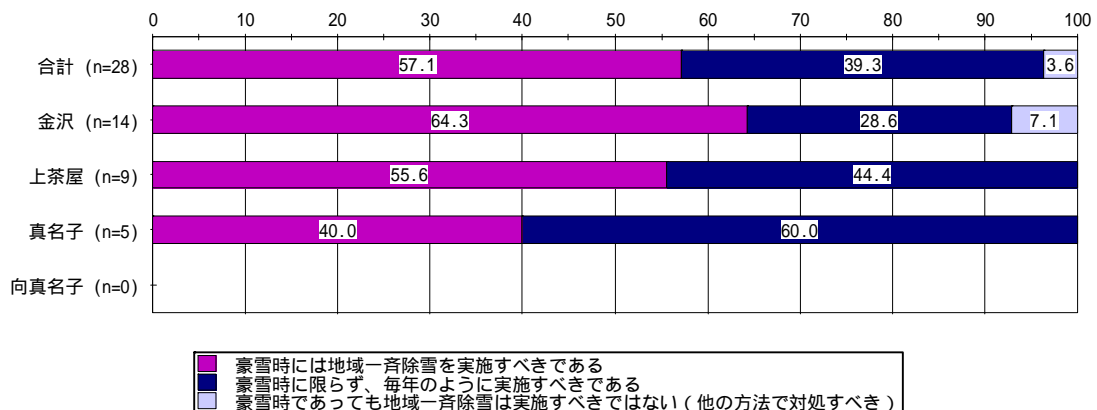
【不満者の理由】

- ・(町外ボランティアはやめて欲しい) 町でお金がかかるため。
- ・冬国でないところから来て、雪を楽しんでいるだけ。
- ・町内の協力で出来ることであって、町外からの参加はなくてもいい。
- ・ボランティアには活動(作業)が制限されているようですね。

6) 地域一斉除雪の今後の実施意向

- ・今後とも実施するべきと回答する家帯は9割以上ある。

図表 3 - 27 今後の地域一斉除雪の実施意向



地域一斉除雪の感想 (今後の実施意向) × 地区名

7) その他の自由意見

<p>肯定的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは大変良いことだと思っています。これからも雪の多いときにはお願いしたいです。 ・大変助かりました。 ・今後も続けて欲しい。 ・周りの除雪は大変で社協の世話になりました。家で高齢は感謝の声。若い手のある家は不満も耳にした。屋根の雪が落ちてくるので毎日のように除雪でした。去年は本当にお世話になりました。雪の多い年は淋しいです。いつもありがとうございます。 ・ボランティアお願いします。
<p>否定的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪の降らないところからのボランティアは遊びに来ているように見えたのでいらないと思う。(炊き出し等がバカらしいと思った。) それより、ボランティアにかかる費用があったら町内のシルバー人材などにお金をやった方がもっと丁寧に除排雪してくれると思う。 ・頼みたい人だけ頼むと良い。
<p>改善提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しの負担が大きいとご近所の人が言っていたので、その点をどうにかしていただけたら、ボランティアの方々に来ていただけるのはとても良かったし、多くの方が助かったと思います。 ・土曜日に実施すると家の者がいない(男)ので、日曜日にしてほしい。豪雪時には地域一斉除雪は必要だが、町外からのボランティアの人は特に必要ないのではと思う。日曜日に実施すれば町内の人たちで協力し出来ることです。何故かと言うと、数人いる中で何もせず腰に手をあて立っている人がいた。町内の協力で実施すれば炊き出し、食材提供等しなくても良い。 ・人力には限界があるので、町との連携で機械等を借上げ等、工夫して実施して欲しい。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域一斉除雪を行った場合に経費はどのくらいかかるのか。軒下まで積もった雪を道路まで積上げた場合に、道路から除排雪するには大型機械が必要になると思いますが。軒下の雪は屋根から落ちて圧縮されて堅くなっていきますので、人手で取り除くのは困難な所もある。 ・地域除雪実施に当たり連絡等具体的に知らせていただければ光栄に存じる(負担等も含む)。

【アンケート票】

豪雪時の地域一斉除雪に関するアンケート調査

藤里町社会福祉協議会

〔調査の趣旨〕

- ・本調査は国土交通省が実施する「豪雪地帯における安心安全な地域づくりに関する調査」の一環として行なわれているもので、秋田県、藤里町、秋田県社会福祉協議会が協力しております。
- ・「平成18年豪雪」において問題となった、地域防災力の低下や雪下ろしの担い手不足等の対策検討のために実施するものです。
- ・昨年度、地域一斉除雪をされた「北部地区」にお住まいの方を対象として実施しております。

〔回収方法〕

- ・社会福祉協議会の職員、民生委員などにお渡しください。
- ・回収期日は2月16日（金）までをお願いします。

問1 「平成18年豪雪」時の、ご自宅の屋根雪下ろしや家の周囲の除雪について伺います。

(1) 屋根雪下ろしの回数は何回でしたか？

 回

(2) 屋根雪下ろしは、主にどなたが行なわれましたか？(1つに)

1. 家族内 2. 近所・町内会 3. 無償ボランティア 4. 有償業者 5. 社協職員・民生委員
6. 役場職員 7. その他()

(3) 家の周囲の除雪は、主にどなたが行なわれましたか？(1つに)

1. 家族内 2. 近所・町内会 3. 無償ボランティア 4. 有償業者 5. 社協職員・民生委員
6. 役場職員 7. その他()

問2 「平均的な積雪年」の、ご自宅の屋根雪下ろしや家の周囲の除雪について伺います。

(1) 屋根雪下ろしの回数は何回程度ですか？

 回

(2) 屋根雪下ろしは、主にどなたが行なわれますか？(1つに)

1. 家族内 2. 近所・町内会 3. 無償ボランティア 4. 有償業者 5. 社協職員・民生委員
6. 役場職員 7. その他()

(3) 家の周囲の除雪は、主にどなたが行なわれますか？ (1 つに)

1. 家族内 2. 近所・町内会 3. 無償ボランティア 4. 有償業者 5. 社協職員・民生委員
6. 役場職員 7. その他 ()

問3 平成 18 年 1 月 21 日(土) 北部地区を対象として「地域一斉除雪」が実施されました。この活動について感想をお伺いします。

(1) 除雪効果の感想 (1 つに)

1. 満足している (除雪の効果は大きかった)
2. 不満である (あまり効果はなかった)
(具体的には)
3. どちらとも言えない

(2) 地元負担 (例 : 除雪協力、炊き出し、食材提供等) に対する感想 (1 つに)

1. 満足している (相応の負担であった)
2. 不満である (地元負担が大きすぎた)
(具体的には)
3. どちらとも言えない

(3) 昨年度は町外からボランティアが参加されました。このことについてどのように思われましたか。 (1 つに)

1. 良い事だったと思う
2. 町外のボランティア参加はもうやめて欲しい
(具体的には)
3. その他 (具体的には)

(4) 今後の地域一斉除雪の実施意向 (1 つに)

1. 豪雪時には地域一斉除雪は実施すべきである
2. 豪雪時に限らず、毎年のように実施してもよい
3. 豪雪時であっても地域一斉除雪は実施すべきではない (他の方法で対処すべきだ)
(その理由は)

(5) 今後、地域一斉除雪を進める上での問題について感想をご記入ください。

~ ありがとうございました ~

(6) 座談会の結果(主な意見)

(炊き出しについて)

- ・当初は、各戸で食事を用意するよりも地域全体で全員分を用意した方が効率的ではないか、とのねらいがあった。
- ・しかし、地元で説明する段階で、「ボランティアを接待するための食事提供」というようになったため、嫌な印象を持った一部の方がいた。

(除雪用ローダーについて)

- ・当初、地区住民の負担により、技能組合の小型除雪ローダーを準備していたが、実施直前になって、町所有の中型除雪ローダーを提供してくれた。
- ・町所有のものがなければ、人力だけでは処理できなかった。

(ボランティア参加について)

- ・「外部からボランティア参加がある」という話を聞いて、地域も全員で参加しなければならない、というように結束した。
- ・不慣れなボランティアの方は働力としてはそんなに役にはたっていない。

(継続的な実施について)

- ・大湯村では19の住区のうち、2つの住区では、住区の年間行事として毎年地区一斉除雪を実施している。昔は、その後食事会を開催していたが、今は飲酒運転や地元の負担のことがあるのでやらなくなってきたようである。
- ・北部地区でも、少雪年でもイベントのように継続して実施していくことが必要ではないか。

(平時の交流について)

- ・白神山地という観光資源を保有しているので、通年交流メニューを開拓して、冬期ボランティアへも発展していく方向性が期待できる。